

2012年度 事業報告書

学校法人 神戸女学院



はじめに



学校法人 神戸女学院
理事長・院長 森 孝一

神戸女学院は、2013年に創立138年を迎えます。自由を愛し、民主的な組織運営を尊重するアメリカ・プロテスタント教会の一教派である会衆派教会の海外宣教組織「アメリカン・ボード」によって、1875年（明治8年）に、神戸に設立されました。

高等教育機関となった神戸女学院は、1933年（昭和8年）に現在のキャンパスである西宮市岡田山に移転いたしました。2013年は岡田山へのキャンパス移転80周年にあたります。国の「登録有形文化財」に登録されたヴォーリズ設計による校舎群と、岡田山の豊かな自然は、本学院の貴重な財産であるだけでなく、キャンパス自体が情操教育のための資産となっています。

神戸女学院の永久標語である「愛神愛隣」は、本学院の教育目標を表現しています。キリスト教を基本とする人格教育を教育の中心に置き、獲得した知識や技術を、自分のために用いるだけでなく、社会、国家、世界のために貢献することのできる人材を養成すること。これが神戸女学院の教育目標です。

2013年度には大学に、英語能力の更なる向上のために、「共通英語教育研究センター」を設置し、完成時には6名の教員を配置いたします。また学生の自発的学修を促すための施設として、図書館に「ラーニングコモンズ」を開設いたします。これはいずれも、大学の中長期計画に基づく教育内容と設備の整備の一環です。

施設・設備面では、2012年度に西門からの道路の拡幅工事を行いました。これによって、ほとんどの車両が西門を利用するように規制し、学生・生徒と車両の流れを切り離すことにより、安全の確保を図ります。2013年度に予定されている工事としては、老朽化した中高部2号館の建て替え、および、中高部タルカット記念館のバリアフリー化のために、エレベーターを設置します。また大学に関しては、文学館のエレベーター設置と1階トイレの改装、ジュリア・ダッドレー記念館の外装工事を行います。また総務館内の講堂とソールチャペルの空調設備の改修を行う予定です。

今後も神戸女学院に対しまして、皆さまのより一層のご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

I. 法人の概要

1	建学の理念・教育目標	1
2	設置学校・学部・学科等	1
3	ミッションステートメントと基本ポリシー	2
4	校地・校舎	5
5	入学定員・収容定員・在籍者数	7
6	役員・評議員に関する事	9
7	教職員数等に関する事	10
8	法人の沿革	12
	神戸女学院における寄付募集事業について	14

II. 事業の概要

1	大学総括	15
2	中高部総括	16
3	教育・研究	17
4	高大連携	22
5	地域貢献	24
6	その他の事業	28
7	施設・設備	30
8	入試に関する状況	31
9	留学に関する状況	34
10	卒業、修了、満期退学、博士学位授与の状況	37
11	就職・進学状況等	38

III. 財務の概要

1	2012年度決算の概要	42
2	資金収支計算書	42
3	消費収支計算書	45
4	貸借対照表	49
5	財務データの推移	51

IV. 事業計画

1	今後の運営方針及び2013年度予算編成について	54
2	2013年度事業計画	54
3	2013年度予算書	56

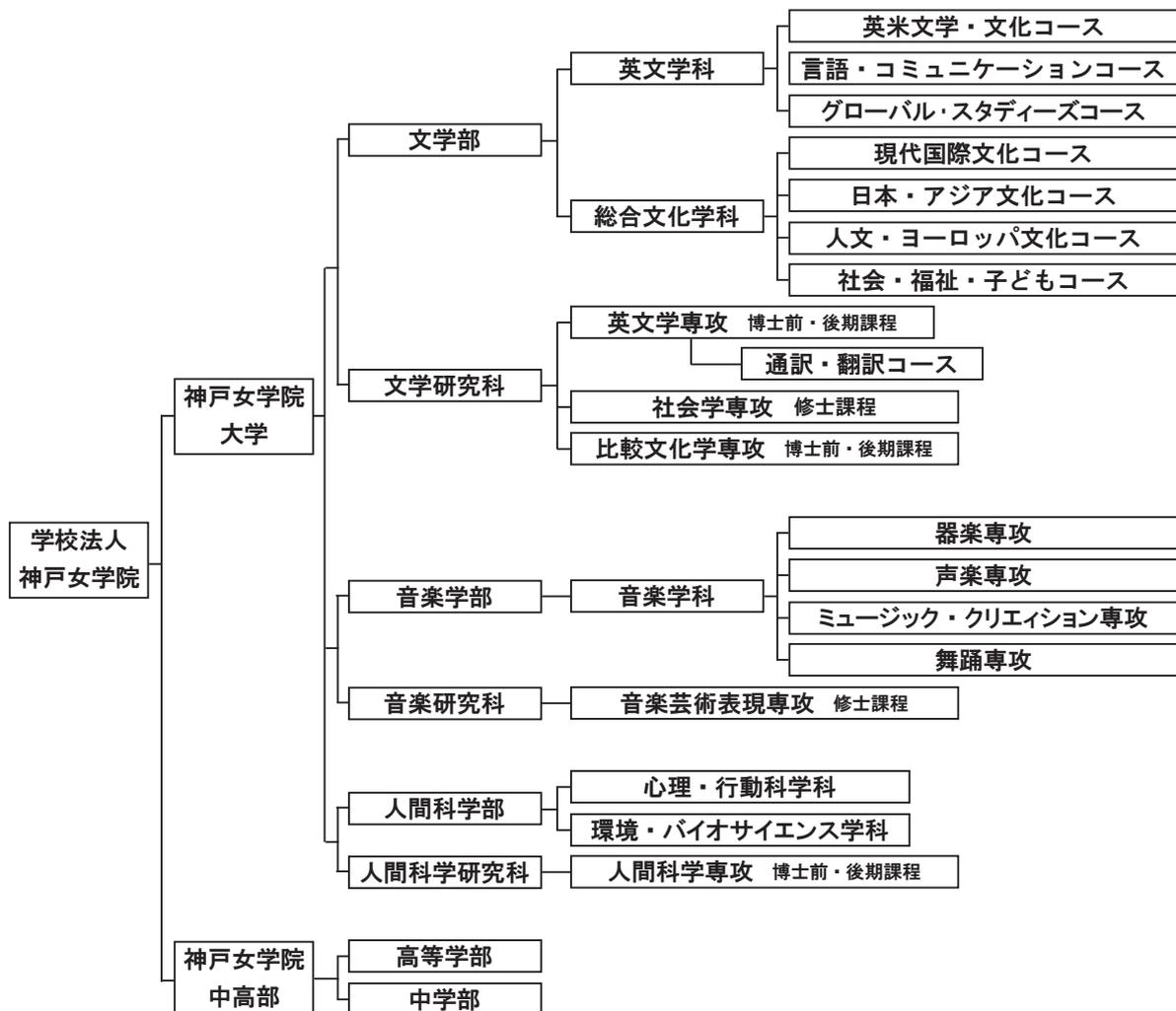
I. 法人の概要

1 建学の理念・教育目標

神戸女学院は、1875年（明治8年）、日本が近代化への一步を踏み出したその時、アメリカン・ボード中部及び東部婦人伝道会から派遣された宣教師タルカット、ダッドレー両先生によって創立された。当初から、神戸女学院の教育の根幹はキリスト教と国際理解の精神に根ざした全人教育であり、個性を重んじ、自由で自立した教養豊かな女性の育成であった。以来、高い教養と専門的知識、広い視野

と適確な判断力、さらに語学力を育み、神戸女学院の永久標語である「愛神愛隣」の精神のもと、自らが身を置いた時代や環境の中で、自らの使命を自覚し、地域社会や国際社会で活躍する女性を世に送り出してきた。現代も、この建学の精神と基本的教育目標を堅持しながら、急速に変化する社会の要請に対応して、絶えずカリキュラム内容の充実を図っている。

2 設置学校・学部・学科等



3 ミッションステートメントと基本ポリシー

● 大学

ミッションステートメント

神戸女学院大学は、学ぶ者と働く者が共に学院標語「愛神愛隣」に基づくキリスト教の精神を分かち合い、時代の潮流に流されることなく、置かれた場で、利害を超え、自らの役割を感知し、果たし、人にとって真に大切なものを見分ける、共感性の高い人格への成長を目指します。

アドミッション・ポリシー（入学者選考の基本方針）

本学のミッションステートメントとアカデミック・ポリシーをよく理解し、それぞれの学科・専攻の教育課程を履修するために必要な基礎学力を備えた人を受け入れます。本学における学びを通して建学の理念を体得し、与えられた知恵と力を社会に生かして、隣人に仕えることを志す人を迎えます。

アカデミック・ポリシー（カリキュラムの編成方針）

キリスト教主義の歴史ある女性高等教育機関としての伝統に基づき、現代の女性のライフステージの多様さを理解し、幅広い知識と教養と応用力を身につけた共感性の高い人格を養成します。そのために、文学部（英文学科及び総合文化学科）、音楽学部（音楽学科）、人間科学部（心理・行動科学科及び環境・バイオサイエンス学科）を置き、次のような方針に基づいてカリキュラムを編成します。

1) 基礎学力と教養の習得

専門教育科目の理解を深め、幅広い視野と知識を持つための全学共通科目（主題コース、入門コース、探求コース、外国語、体育学及びキリスト教教育）を必修科目とします。

2) 専門的知識と技術の習得

専門的な知識と技術を体系的に習得するために、各学科に専門教育科目群を設置します。学科の内容に応じた表現能力、課題設定・問題解決能力、コミュニケーション能力を身につけるため、少人数のゼミ教育・実技指導を行います。

3) リベラル・アーツ&サイエンス教育の推進

専門分野を学びつつ、同時に幅広い知識と教養と応用力を身につけるため、学部学科の壁を越えた教育を推進します。学科専門教育科目の一部を探求コース科目として他学科生に開放し、また、副専攻制度を設け、学科横断的な学修機会を提供します。

4) 国際理解の推進

全学を対象に、通訳を養成する教育方法を応用して、英語運用能力を集中的に伸ばす通訳・翻訳プログラムを行います。また、他者との共生を志す国際理解の精神を育むため、海外の大学・諸機関との交流、多彩な留学、研修プログラムなどを実施します。

5) キャリア形成の支援

専門的知識を活かしたキャリア形成のために教育職員免許状（英語、社会、地理歴史、公民、国語、音楽及び理科）や精神保健福祉士の受験資格など、資格取得のための科目群を設置します。また、キャリア形成のための基本的認識を深める科目群を提供します。

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与に関する方針）

神戸女学院大学では次のような能力を身につけ、かつ所定の単位を修得した学生に対して教授会での審議を経たうえで、卒業が認定されます。

1) 本学の学生が卒業時に備える能力

本学の教育課程を修了した者は体系的に身につけた専門的なものの見方や専門的技術を活かしたキャリアに従事する能力を身につけています。また、専門領域の枠を超えた幅広い教養、表現力、ものの見方、共感性を身につけています。

2) 卒業に値する学生を認定する手段

文学部では卒業論文（英文学科は英文）を担当

教員が審査し、優秀な論文を公表します。

音楽学部では卒業専門実技試験にて審査が行われ、その後、全員が公開の卒業演奏・公演に臨みます。

人間科学部では卒業論文を担当教員が審査し、公開された卒業論文発表会を行います。

キャリアデザインポリシー

神戸女学院大学では「キャリア」を「人が生涯を通じて行う仕事の総体である」(Career is the totality of work in her lifetime)と認識しています。学生は本学での大学生活を通して知識や技術、能力、人間性、主体性を豊かに育みます。卒業後は社会に自立・適応し、生涯多様な女性のライフステージを通じて、置かれた場で、職業人、家庭人、社会人として、社会を創造していきます。学生の豊かなキャリアを実現するため、本学では次の方針に基づき、教職員が協力して各自の進路をデザインする力を養います。

1. 本学の「ミッションステートメント」にあるように、キリストの教えに基づく伝統の中で豊かな人間性を育みます。
2. 本学の「アカデミックポリシー」による学修により、基礎学力と幅広い教養、確かな専門知識と技術、応用力、国際的視野と異文化理解を育みます。
3. 学科の専門教育科目の体系的な履修により、学科の特性を生かした就業分野で社会的に自立できる職業人を育成します。
4. 学科横断的に設けた教育プログラムの履修により、専門教育科目で身につけた知識や技術を創造的に活用する能力や広い視野を涵養します。
5. 求人や企業等に関する情報提供に加えて、個別面談・指導や学年に応じた各種特別講座を充実させ、実践的に支援します。

● 大学院

ミッションステートメント

神戸女学院大学大学院は、学ぶ者と働く者が共に学院標語「愛神愛隣」に基づくキリスト教の精神を分かち合い、時代の潮流に流されることなく、置かれた場で、利害を超え、自らの役割を感知し、果たし、人にとって真に大切なものを見分ける、共感性の高い人格への成長を目指します。

アドミッション・ポリシー（入学者選考の基本方針）

本学大学院のミッションステートメントとアカデミック・ポリシーをよく理解し、それぞれの研究科・専攻の教育課程を履修するために必要な基礎学力を備えた人を受け入れます。本学における学びを通して建学の理念を体得し、与えられた知恵と力を社会に生かして、隣人に仕えることを志す人を迎えます。

アカデミック・ポリシー（カリキュラムの編成方針）

キリスト教主義の歴史ある女性高等教育機関としての伝統に基づき、現代の女性のライフステージの多様さを理解し、専門的な知識と応用力を身につけた共感性の高い人格を養成します。そのために、文学研究科（修士課程、博士前期・後期課程）、人間科学研究科（博士前期・後期課程）、音楽研究科（修士課程）を置き、次のような方針に基づいてカリキュラムを編成します。

- 1) 専門的学術理論・技術の教授と研究、
- 2) 論理的思考力の養成、
- 3) 専門知識と技術の社会的還元、
- 4) 文化・思想・科学の進歩に寄与する独創性の育成

ディプロマ・ポリシー（修了認定・学位授与に関する方針）

神戸女学院大学大学院では次のような能力を身につけ、かつ所定の単位を修得した大学院生に対して所定の委員会での審議を経たうえで、修了が認定されます。

1) 本学の大学院生が修了時に備える能力

本学大学院の博士前期課程・修士課程を修了した者は体系的に身につけた専門的なものの見方や表現力、専門的技術を活かした教育・研究キャリアに従事する能力を身につけています。また、専門領域の知識や技術を有効に社会に還元するためのものの見方、共感性の高い人格的教養を身につけています。

本学大学院の博士後期課程を修了した者は専門領域のより深い知識と思考力を身につけ、自立した研究者、指導者としての能力を身につけています。

収めた学生には学外で開催する修了披露演奏会で演奏する機会を与えます。副論文は製本されて本学図書館に保管され一般の閲覧に供します。

2) 修了に値する学生を認定する手段

文学研究科では修士論文または修士課題研究を主査および副査が審査し、研究科委員会で合否を判定します。合格した論文または課題研究は公開の場で報告します。博士論文の審査は、研究科委員会で選出された主査および副査による査読、公開の口頭試問を行います。研究科委員会の審議を経たのち、大学院委員会で合否の判定を行います。修士号および博士号を授与された論文は製本されて本学図書館に保管され一般の閲覧に供します。合格した博士論文は3ヶ月以内に論文要旨、審査結果の要旨を学内学術刊行物に公表します。

人間科学研究科では修士論文を主査および副査が審査し、公開された修士論文発表会と審査委員による口頭試問を行い、研究科委員会で合否を判定します。博士論文の審査は、研究科委員会で選出された主査および副査による論文審査、公開の論文公聴会と口頭試問を行います。研究科委員会の審議を経たのち、大学院委員会で合否の判定を行います。修士号および博士号を授与された論文は製本されて本学図書館に保管され一般の閲覧に供します。合格した博士論文は3ヶ月以内に論文要旨、審査結果の要旨を学内学術刊行物に公表します。

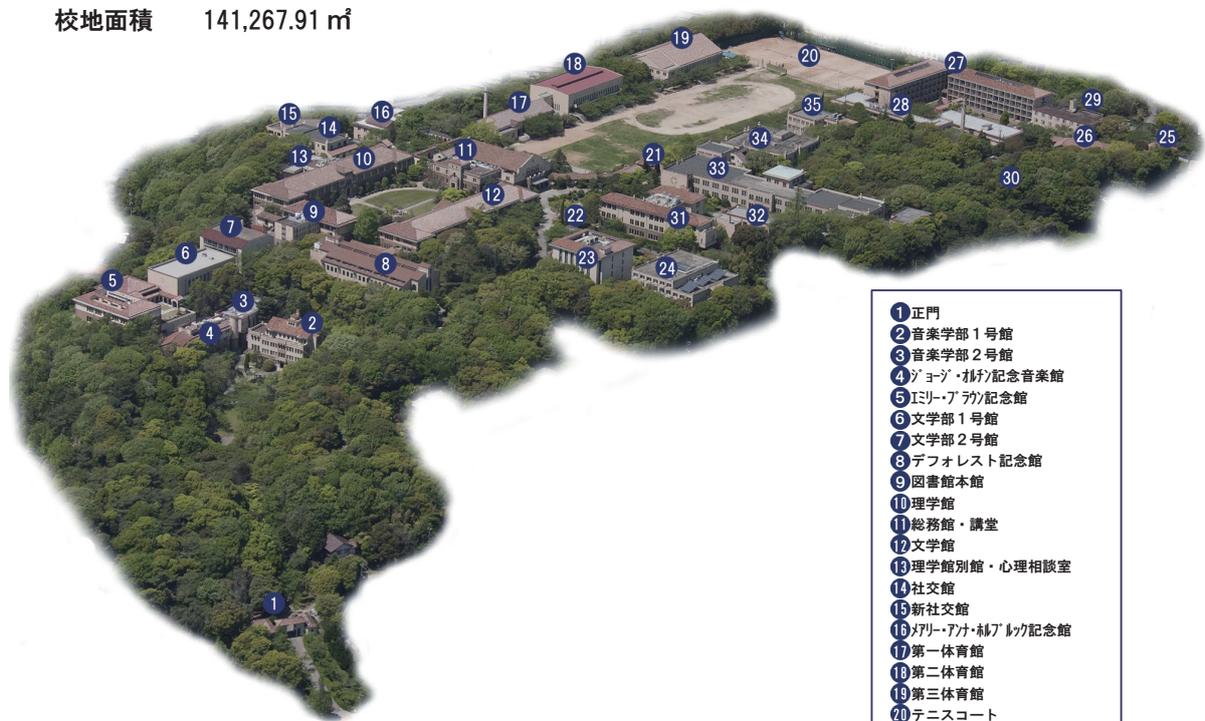
音楽研究科では修了作品または修了演奏を専門教員全員と外部から招聘した審査員により公開のもとで審査し、副論文は主査と副査が審査します。合否は研究科委員会で判定します。優秀な成績を

4 校地・校舎

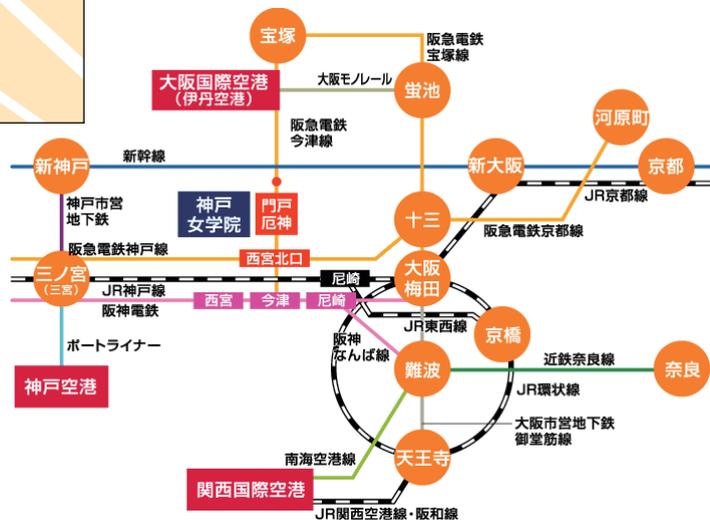
● 岡田山キャンパス

所在地 西宮市岡田山4番1号

校地面積 141,267.91 m²



- ① 正門
- ② 音楽学部 1号館
- ③ 音楽学部 2号館
- ④ ジョージ・林肯記念音楽館
- ⑤ エミリー・アラウ記念館
- ⑥ 文学部 1号館
- ⑦ 文学部 2号館
- ⑧ デフォレスト記念館
- ⑨ 図書館本館
- ⑩ 理学館
- ⑪ 総務館・講堂
- ⑫ 文学館
- ⑬ 理学館別館・心理相談室
- ⑭ 社交館
- ⑮ 新社交館
- ⑯ マリー・アト・グレイス記念館
- ⑰ 第一体育館
- ⑱ 第二体育館
- ⑲ 第三体育館
- ⑳ テニスコート
- ㉑ 購買部
- ㉒ シェイクスピア・ガーデン
- ㉓ 図書館新館
- ㉔ ジュリア・ガトラー記念館
- ㉕ エッジウッド館(研究室)
- ㉖ ケンウッド館
- ㉗ マリー・アト・グレイス・スノウ学生寮
- ㉘ 岡田山ロッジ
- ㉙ 大学加-バー館(クラブハウス)
- ㉚ 茶室(松風庵)
- ㉛ アンジー・クルー記念館
- ㉜ コミュニケーションセンター
- ㉝ 中高部 1号館・2号館
- ㉞ タルカット記念館
- ㉟ めぐみ会館(同窓会館)



● Kobe College International Students House

所在地 西宮市岡田山1-3-1

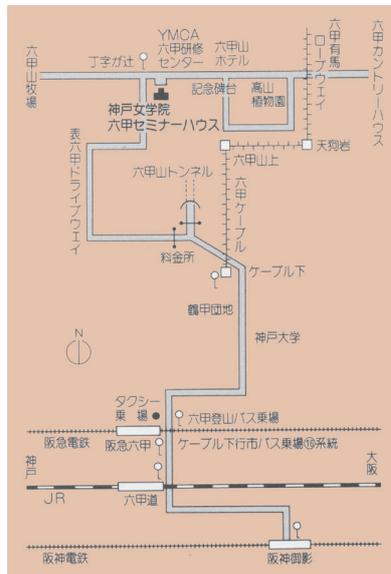
敷地面積 696.10㎡



● 六甲セミナーハウス

所在地 神戸市灘区六甲山町1043-8

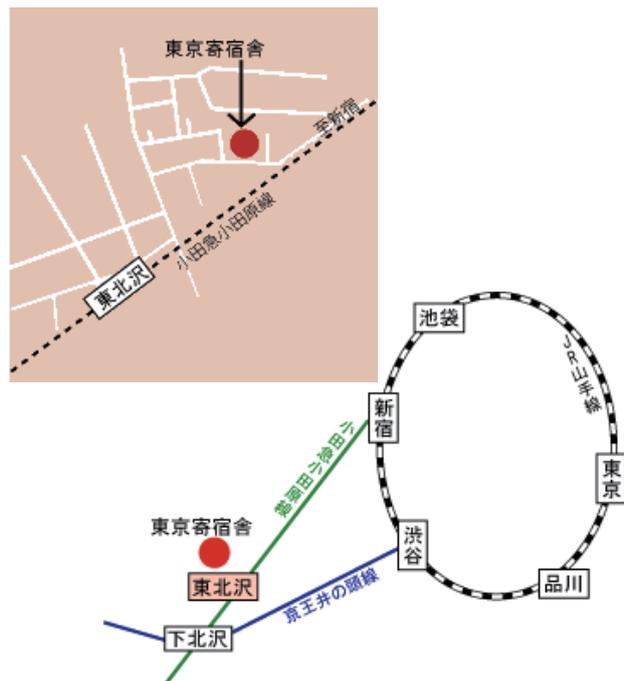
敷地面積 1,501.65㎡



● 東京寄宿舍クローバーハウス

所在地 東京都渋谷区大山町8-7

敷地面積 367.46㎡



5 入学定員・収容定員・在籍者数

2012年5月1日現在

●神戸女学院大学		入学定員	入学者数	収容定員	在籍学生数
文学部					
英文学科		140名	176名	560名	712名
総合文化学科※1		200名	238名	740名	941名
	計	340名	414名	1,300名	1,653名
音楽学部					
音楽学科※2		46名 (編入)1名	41名 1名	187名 1名	205名
人間科学部					
心理・行動科学科※3		90名	106名	340名	419名
環境・バイオサイエンス学科		80名	94名	320名	376名
	計	170名	200名	660名	795名
	大学 計	556名 (編入)1名	655名 1名	2,147名 1名	2,653名

※1 2012年度より総合文化学科の入学定員を180名から200名に増員

※2 2012年度より音楽学科の一年次入学定員を47名から46名とし、編入学定員を1名に変更

※3 2011年度より心理・行動科学科の入学定員を80名から90名に増員

●神戸女学院大学大学院		入学定員	入学者数	収容定員	在籍学生数
文学研究科					
英文学専攻	博士前期課程	13名	6名	26名	24名
	博士後期課程	2名	1名	6名	1名
社会学専攻	修士課程(募集停止)	5名	0名	10名	3名
比較文化学専攻	博士前期課程	5名	1名	10名	8名
	博士後期課程	2名	1名	6名	2名
	計	27名	9名	58名	38名
人間科学研究科					
人間科学専攻	博士前期課程	10名	9名	20名	19名
	博士後期課程	2名	1名	6名	2名
	計	12名	10名	26名	21名
音楽研究科					
音楽芸術表現専攻	修士課程	7名	7名	14名	14名
	大学院 計	46名	26名	98名	73名

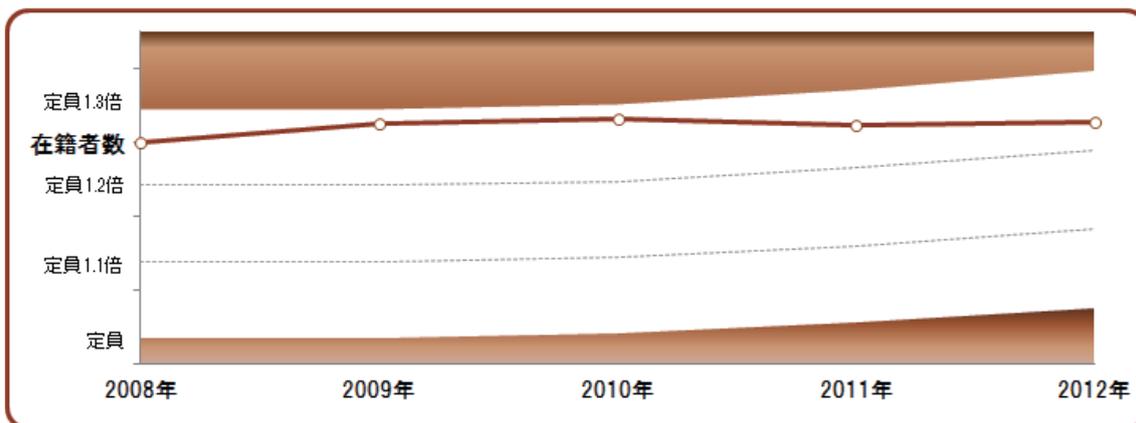
●神戸女学院中高部		入学定員	入学者数	収容定員	在籍学生数
中学部		135名	142名	405名	420名
高等学部	全日制課程 普通科	—	— ※	405名	429名
	中高部 計	135名	142名	810名	849名

※ 高等学部は内部進学者のみ

● 在籍者数推移

神戸女学院大学

	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年
文学部	1,620	1,651	1,679	1,656	1,653
音楽学部	214	213	211	212	205
人間科学部	764	786	772	775	795
計 (A)	2,598	2,650	2,662	2,643	2,653
定員 (B)	2,068	2,078	2,088	2,108	2,148
(A) / (B)	1.26	1.28	1.27	1.25	1.24



神戸女学院大学大学院・修士・博士前期課程

	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年
文学研究科	26	22	33	42	35
人間科学研究科	18	25	21	18	19
音楽研究科	15	14	14	14	14
計	59	61	68	74	68

神戸女学院大学大学院 博士後期課程

	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年
文学研究科	15	15	10	5	3
人間科学研究科	2	1	1	1	2
計	17	16	11	6	5

神戸女学院中高部

	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年
中学部	446	436	436	423	420
高等学部	433	440	441	438	429
計	879	876	877	861	849

6 役員・評議員に関すること

2012年5月1日現在

理事		定員	現員	
第1号理事	院長(理事長)	1名	1名	森孝一
第2号理事	学長	1名	1名	飯謙
第3号理事	中高部長	1名	1名	船橋昭
第4号理事	めぐみ会※1推薦会員で 理事会選任	3名	3名	橋本恵里子 伊藤良子 上紀子
第5号理事	評議員会選任	2名	2名	南徹弘 西澤他喜衛
第6号理事	コーポレーション※2推薦で 理事会選任	3名	3名	原田恵子 伊藤栄子 斉藤言子
第7号理事	理事会選任学識経験者	4名	4名	家近正直 柴谷享一郎 安場耕一郎 吉富正夫
総数		15名	15名	
監事		2名	2名	秋山ひさ 澤田磐雄

評議員		定員	現員	
第1号評議員	理事会選任学識経験者	11名	11名	石田忠範 磯部卓三 伊藤良子 松本眞千子 南徹弘 西澤他喜衛 佐藤容子 富田順治 辻毅一郎 植木龍夫 吉富正夫
第2号評議員	めぐみ会推薦会員で 評議員会選任	8名	8名	石割初子 松本美耶子 中川玲子 中野桂子 野木芳子 田宮孝子 転法輪真理 富川浩子
第3号評議員	理事会推薦教職員で 評議員会選任	8名	8名	古庄高 小林哲郎 斉藤言子 林真理子 北田京子 荻欣也 井出敦子 住野秀樹
第4号評議員	コーポレーション推薦で 評議員会選任	4名	4名	馬場美奈子 Ann B. CARY 伊吹寛子 杉浦剛
総数		31名	31名	

※1めぐみ会…

正式名称「公益社団法人神戸女学院教育文化振興めぐみ会」は、キリストの教えに基づく神戸女学院の立学の精神を重んじて、その教育の振興を助成し、会員の教養を高め相互の親睦を図るとともに、社会に貢献することを目的とした組織です。めぐみ会の主たる会員は、神戸女学院が設置した学校の卒業生です。(在校生は準会員)

※2コーポレーション…

正式名称「Kobe College Corporation」は、神戸女学院の維持管理と募金のためにアメリカ合衆国イリノイ州シカゴに設立された財団であり、1920年の設立時より現在に至るまで本学院のための募金活動を続け、現在では主に、中高部英語教員や大学客員教員の派遣、本学学生への海外インターンシップの機会提供、奨学金などの支援を行っています。

7 教職員数等に関すること

● 在籍教職員数

2012年5月1日現在

	教授	准教授	専任講師	助教	任期制教員	特任教授	特任助教	客員教員	客員研究員	特別客員	計
英文学科	6	6	6	0	0	0	0	0	0	0	18
総合文化学科	15	6	3	0	0	0	0	0	1	0	25
音楽学科	10	1	1	0	1	0	0	2	0	0	15
心理・行動科学科	4	4	1	0	1	0	0	0	0	0	10
環境・バイオサイエンス学科	9	2	0	0	0	0	1	1	0	0	13
一般(体育)	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
計	46	19	11	0	2	0	1	3	1	0	83

	教諭
高等学部	20
中学部	21
計	41

	専任事務職員	専任労務職員	契約職員(学生寮)	計
法人	17	1	1	19
大学	45	0	2	47
中高部	6	0	0	6
計	68	1	3	72

	嘱託事務職員	嘱託教学職員	計
週5日	1	0	1
週4日	16	11	27
週3日	1	3	4
週2日	0	4	4
計	18	18	36

● 在籍教職員数推移

		2008年	2009年	2010年	2011年	2012年
大学	専任教員	85	84	87	86	83
	非常勤講師	332	342	333	340	338
	大学計	417	426	420	426	421
中高	専任教員	41	42	41	39	41
	非常勤講師	17	19	23	24	23
	中高計	58	61	64	63	64
計		475	487	484	489	485

学院	専任職員※	73	71	70	72	72
	嘱託職員	34	35	36	36	36
	計	107	106	106	108	108

※契約職員含む

8 法人の沿革

1873年（明治6年）

米国で教育者としての経験を持っていたタルカット、ダッドレー両宣教師は、3月に来日し、10月、神戸花隈村に私塾を開く。

1875年（明治8年）創立

山本通に女子寄宿学校を開校。「女学校」と呼ばれる。英語名はGirls' School。初代校長はタルカット、舎監はダッドレーで、当初の学生数は26名（寄宿生3名、通学生23名）。

1879年（明治12年）

校名を「英和女学校」とし、5年制の課程を定めカリキュラムを整備。

1885年（明治18年）

高等科（1年）、および校章を定める。三つ葉のクローバーをかたどった校章は、身体、精神、靈魂の一致調和した完全な人格の育成をめざす学院の理想を表現。

1891年（明治24年）

本格的な女子高等教育を開始、3年制の高等科を設ける。この頃「神戸英和女学校」と名のる。

1894年（明治27年）

「神戸女学院（Kobe College）」と改称。名実ともにCollege（女子高等教育機関）となる。

1906年（明治39年）

教育課程を改正。また、新たに音楽科を置く。

1909年（明治42年）

専門学校令により「専門部（4年制）」（当時の女子高等教育の最高水準）設置認可。

1919年（大正8年）

専門部を「大学部」と改める。予科1年・本科3年を置く。

1933年（昭和8年）

西宮市岡田山に移転。伝道者・建築家ヴォーリズによってスパニッシュ・ミッション様式の校舎が完成。現在の文学館、理学館、図書館本館、音楽学部1号館、講堂・ソールチャペルを含む総務館などは当初の建物。

1948年（昭和23年）

学制改革により4年制の新制女子大学—「神戸女学院大学」が認可され、文学部（英文学科、社会学科、家政学科）を設置。

1949年（昭和24年）

新制の音楽学科を設置。1952年には音楽学部 of 認可を受ける。

1965年（昭和40年）

大学院文学研究科（修士課程）英文学、社会学専攻を設置。

1967年（昭和42年）

家政学科が独立して家政学部となる。

1975年（昭和50年）

「創立100周年」を迎える。

1976年（昭和51年）

文学部社会学科を改組して総合文化学科とする。

1980年（昭和55年）

大学院の整備・充実が進む。大学院文学研究科（修士課程）に日本文学専攻を設置。

1989年（平成元年）

大学院文学研究科英文学専攻に博士後期課程を設置。

1990年（平成2年）

音楽専攻科を設置。

1993年（平成5年）

家政学部を改組して、人間科学部人間科学科を設置。（家政学部は募集停止）

1997年（平成9年）

大学院人間科学研究科（修士課程）人間科学専攻を設置。

1999年（平成11年）

大学院人間科学研究科人間科学専攻に博士後期課程を設置。

2000年（平成12年）

創立125周年を迎える。大学院に音楽研究科（修士課程）音楽芸術表現専攻を設置。また大学院文学研究科日本文学専攻を比較文化学専攻に改称。

2001年（平成13年）

東京女子大学と相互に学生交流を行う特別聴講制度を開始。

2002年（平成14年）

大学院文学研究科比較文化学専攻に博士後期課程を設置。

2004年（平成16年）

大学院文学研究科（博士前期課程）英文学専攻に通訳コースを設置。

2005年（平成17年）

人間科学部に心理・行動科学科と環境・バイオサイエンス学科を設置。（人間科学科は募集停止）

2006年（平成18年）

音楽学部音楽学科に舞踊専攻を設置。

2007年（平成19年）

音楽学部音楽学科作曲専攻をミュージック・クリエイション専攻に改組。

神戸女学院における寄付募集事業について

神戸女学院では、「神戸女学院教育振興会」（1998年4月発足）を組織して、寄付募集を行っています。教育振興会は、本学院の教育環境を充実、発展させるための財政基盤を強固なものにすることを目的とし、在校生保護者、同窓生、教職員、旧教職員、役員、法人等を会員として恒久的な活動を行っています。

教育振興会へのご寄付は、次の2つの事業に活用しています。

- ・ 岡田山キャンパス 100周年に向けて2008年5月に策定された「神戸女学院岡田山キャンパス一創建建築保存再生計画」に沿って改修を実施するための費用の一部
- ・ 学生生徒の奨学基金の拡充

2012年度は815件、3,431万2,789円のご寄付をいただき、発足以来の累計が14,710件、10億2,044万4,824円となりました。多くの皆様に尊いご芳志をお届け頂きましたこと、厚く御礼申し上げます。

寄付募集については、毎年会員各位に寄付の依頼状と払込用紙を郵送しています。また、2013年3月から学校法人神戸女学院と神戸女学院大学のホームページからクレジットカード決済による寄付金のお手続きができるようになりました。引き続き本学院に対するご支援をお願い申し上げます。

神戸女学院教育振興会ホームページ <http://www.kobe-c.ac.jp/foundation/index.html>

Ⅱ. 事業の概要

1 大学総括

2012年度は、4月4日の入学式に学部655名、大学院博士前期（および修士）課程23名、同後期課程3名の新入生を迎えて始まり、2013年3月19日、642名に学士号、34名に修士号、1名に博士号を授与する卒業式をもって閉じられました。顧みて、将来に向けての議論を重ね、一定の成果が得られた一年であったと申せます。

まず長期計画について述べます。昨年度の本欄でも触れましたが、大学では議論を重ね、2012年4月教授会において以下の三点について決議をしました（大学のウェブサイト <http://www.kobe-c.ac.jp/about/vision.html> をご覧ください）。

第1点目の「英語教育の強化」については共通英語教育研究センター設置に向けて2011年10月に設立準備室を組織し、月1～2回の頻度で教育の主眼、学生の到達目標、望ましいカリキュラム、スタッフの体制等話し合いました。結果、2013年度4月に同センター開設に至りました。理事会のご理解をいただき、このために他大学の英語教育分野で実績を積まれたOG1名を含む2名の専任教員を新たに招聘しました。さらに増員する予定です。

第2点目は「リベラルアーツ教育の整備」。神戸女学院では建学以来、一つの領域や資格に限定されず、さまざまな場でそれぞれの事情に応じた活動のできる汎用性の高い人を送り出したいとの願いのもと、リベラルアーツ教育を大切にしております。しかしわが国の大学制度や学部・学科間の壁など制約もあり、実効を得にくい現実もありました。本学では現在でも他学科の科目を履修できますが、単発的な学修に留まらざるをえず、改善が期待されてきました。2012年春の教授会研修会で能動的・自発的な学修に対する中央教育審議会等の提言を分析し、その後、教務委員会を中心に次世代の教育課程の検討を開始しました。そうして2014年度入学生から適用の「リベラルアーツ&サイエンスプログラム」をまとめ、2013年2月の学務委員会および教授会で決定しました。この制度により、学生は入学後に関心を懷いた他学科の研究分野を体系的に（20単位以上）学ぶことができます。このコースの修了については、当人の成績証明書に明記する予

定です。

第3点目として、これら自発的な学修を支援する環境の充実をあげます。年度内に着手した一つが図書館（主に新館）のラーニングコモンス化です。伝統的に図書館は静かに書物に向かい合う場でした。しかし社会情勢の変化により、新たなメディアを用いた共同学習の場となる必要性が高まっています。すでに多くの大学が図書館を情報収集基地と性格づけ、社会的要請に沿った機能拡張を図っています。本学も2013年3月に文科省の「私立大学教育研究活性化設備整備事業」に採択され、図書館の改装を行いました。新年度から新たな環境での学修が可能となりました。引き続き支援体制の充実に取り組んでまいります。



これらの策定と並行して、FDセンターと企画評価室により、本学独自の内部質保証システムが構築されました。これは大学基準協会の新大学評価方針に沿ったもので、すでに二年間にわたる試行期間を経ています。PDCA（企画、実行、点検、改善）サイクルを重視したこの自己点検評価活動により、大学の中長期的目標の実現がこれまで以上に円滑に進むことが期待されます。本システムによる評価結果は、本学自己点検評価マネジメントシステム（DMS）において、学内関係者に公開されています。

その他、大学では昨年度、ミッションステートメントに合わせて3ポリシー（アドミッション、アカデミック、ディプロマ）を公表しましたが、今般、各学科の3ポリシーを策定し、ウェブサイトにアップしました。本学の特色をいっそう強く打ち出すよう努めてまいります。

2 中高部総括

中高部の2012年度は、4月2日のJ1（中学部1年）オリエンテーション・デイキャンプにより始まり、6日の中学部入学式で142名を、9日のS1（高等学部1年）入学式で143名（プラス受け入れ留学生2名）を迎え、その後の始業式で中高部の学校生活がスタートしました。J在校生420名、S在校生429名、専任教員41名。今年度も例年と大体同じような行事予定を滞りなく行いました。

例年外部に対して1回の入試説明会と1回のキャンパス見学会をしていたのを、今年度は2回のキャンパス見学会に変えました。ヴォーリズ氏の建築設計の理念である「真に芸術的な建築・学習空間は優れた人格を形成する」校舎群と豊かな自然と自由に生き活きた生徒達の表情と活動を見てもらえるのが、一番の学校説明会であろうと考えたからです。

またSの修学旅行の行き先を九州に変更しました。以前のJの修学旅行のルートとあまり変わりませんが、長崎での自主研修の範囲を大幅に広げました。



昨年度の理事会で承認された2号館の建替えについては学院の建築委員会を何度も重ね、年度末に基本設計が出来ました。中高部の建物は、長い間1号館だけでしたが、1955年に神戸女学院80周年記念として2号館が建設されました。1階に3教室と2階に生物実験室と準備室があり、次の90周年記念に第2体育館（G2）とコムセンター（1階に視聴覚の大教室と2階に英語のLL教室）が建設され（1964年）、1973年に3号館（3階建てで、各階3教室と音楽と社会の特別教室と音楽、社会と国語の準備室。後、阪神淡路大震災に遭いアンジー・クルー館に建替え）、そして100周年記念

としてタルカット館（1979年）が建設されました。1階に美術、書道教室、2階に家庭科3教室（被服、調理）、3階に生物、化学、4階に物理、地学の各教室と準備室を造りました。中高部の校舎も随分と充実し生徒達の生活空間にもゆとりが出来ました。2002年には、高校に情報科という新しい科目が増え、アンジー・クルー館に2つのコンピューター教室を増建築。以上が中高部の校舎の変遷ですが、来年度夏休みから2号館建替え工事を始め、タルカット館にエレベーター設置工事、続けてコムセンターの改修工事が予定されています。新2号館はヴォーリズ社設計の3階建てで、1階が社会科教室と小教室兼集会室、2階には英語のLL教室を2つ、3階は多目的大ホール（授業、集会、クラブ活動等）で、2014年秋から使用の予定です。

校舎が充実していくことは生徒達にも喜ばしいの



ですが、校舎が4箇所になったことにより、教科の準備室も4つに分かれてしまい、教員同士の連絡が少し疎遠になったことは否めません。そこで2013年2月から、礼拝後に教員室で5分間の教員連絡会を毎日持つことを始めました。新鮮な情報交換と、毎朝教員全員が顔を合わせることで、教員の連帯感が増せばよいと願います。

また来年度は、森院長が中高部長を兼任され、北田教頭が部長代行を務められます。新しい船出に天よりの祝福を切に祈念致します。ご加禱を宜しくお願い致します。

3 教育・研究

シンポジウム「ジョブズの世界を訳す」

2012年7月15日、大学院文学研究科「通訳・翻訳コース」が来年度に開設10周年を迎えるのを記念し、イベントとして「ジョブズの世界を訳す」と題したシンポジウムが講堂で開催されました。炎天下、通訳・翻訳に興味を持つ一般、学生の参加者が多数、岡田山に集まりました。

iPhone や iPad で世界を席卷したアップル創業者スティーブ・ジョブズの公式伝記は日本でもベストセラーとなりました。日本版の訳者・井口耕二氏は通訳・翻訳コースの非常勤講師、さらに音楽学部・津上教授の実弟であり本学に関係の深い方です。井口氏の基調講演では、通常の3～4倍の猛スピードで行った翻訳作業の苦心が、ビジュアルも交えて披露されました。原著者の執筆の遅れ、ジョブズの突然の死など、考えられない事態が次々と起きて、超過密スケジュールへと変わっていくさまがサスペンス小説のように語られました。また電子基板の色分けの訳しかたなど、工学部出身の井口氏ならではの専門性の高さや、ジョブズが食べたすしが「穴子」だったのか「うなぎ」だったのか、東京の高級ホテルに問い合わせたエピソードなど、事実を徹底的に検証するプロの姿勢がひしひしと伝わってきました。



基調講演後、井口氏、熱烈なジョブズ・ファンであるアイティメディア(株)松尾公也氏と通訳・翻訳コースの中村昌弘准教授、そして司会・田辺准教授によるシンポジウムが行われ、Q & Aコーナーでも熱心な聴衆から鋭い質問が寄せられました。

イベント終了後、出演者に飯学長を加えて座談会を開催(「Vistas」22号掲載)。話題は若き日のジョブズの原点だったリード大学が、本学と同じリベラ

ルアーツの大学だったことにも及びました。専門人をつくるのが目的ではなく、異質なものをどう受容し、つないでいくか、そして自分を育てるだけでなく他者の生き方にも影響を与えるという点で、通訳・翻訳はリベラルアーツの精神が具体化される領域であることを再確認しました。

柴田元幸『翻訳教室』 at Kobe College

2013年3月20日、大学院文学研究科の「通訳・翻訳コース」が開設10周年を迎えるにあたっての記念イベントとして、アメリカ文学の翻訳家として名高い柴田元幸先生をお招きして、普段先生が東京大学で行っている翻訳の授業を再現していただきました。学内外からの多くの来場者が見込まれたため予約制にしましたが、当日は実際に150人の教室が一杯になる活況を呈し、先生のスリリングな授業を堪能することができました。

この日のイベントのために、柴田先生にはあらかじめ英語の翻訳課題を出していただき、参加者は事前に自分の答案を送るという形式をとりました。課題はRobert Lennonの“Plausible”とRussell Hobanの“Homework”という、どちらも1ページの短いもので、英語は比較的平易なものの、それぞれ独特の雰囲気を持つ作品で、それをどのように日本語に移し変えるかが腕の見せ所です。柴田先生は教壇に立つとまず、細部にわたる丁寧なコメントを付した答案を一人ずつに返却し、色々な答案を抜粋したものをOHCで写しながら重要なポイントを解説されました。授業はフロアの側からの様々な質問や提案に答える形で進められ、それによって翻訳というもの難しさや可能性の広がりが分かっただけでなく、我々の言語意識が研ぎ澄まされていくのが感じられました。二つの課題を一通り終えた後は、翻訳や英語一般についての様々な質問がフロアから投げかけられましたが、柴田先生がそれらに丁寧に答えておられる姿が実に印象的でした。

この日のイベントは1時半に始まり5時に終了しましたが、柴田先生はその後7時から神戸で朗読会を行うためにすぐに移動されました。このようなお忙しい時に来ていただいて、翻訳の難しさや楽しさ

をきわめて具体的に知る会を開くことが出来たのは幸いです。翻訳に携わる者やそれを志す者が大いに勉強になっただけではなく、文学や外国語に少しでも関心を抱く者にとって翻訳という営為がいかに大切で有用なものであるかが分かる一日となりました。

第二回文学部講演会「夢をあきらめないで
～夢を実現させるために～」開催

2012年12月1日、いずれも本学OGである、植田景子氏（宝塚歌劇団演出家）、三好万記子氏（料理研究家）、谷野まりえ氏（舞台女優）を講師として、文学部主催講演会をホルブルック館301教室で開催しました。学生委員も含めて約60名が参加し、熱心に講演に耳を傾けました。また、講演終了後には活発な質疑応答も行われました。

昨年と同様、今年も英文学科・総合文化学科の両学科から選出された学生委員が中心になって準備を進めました。昨年度の「夢をあきらめさせる？」とはある意味対照的な「夢をあきらめないで～夢を実現させるために～」をテーマに選び、実際に本学卒業後に紆余曲折を経て夢を叶えた3名のOGを講師として「夢を実現させるために、今なすべきこと」について考えることになりました。



講演は現在の女学院生たちにとって非常に啓蒙的で有意義な内容でした。より多くの学生たちに聴講してもらうためには、早めの広報活動が今後の課題となりました。

しかし、この講演会の意義は、準備期間を通して一貫して学生主体で企画・実施をすることにもあります。普段交流の機会の少ない両学科の学生たちが

意見を交換し試行錯誤を繰り返しながら徐々にひとつとなって講演会を作り上げていく、そのプロセス自体が非常に有益な学びの機会であったことは間違いありません。これは教育学が専門である古庄文学部長が当初より強く意識していたことでもあります。学生たちが今回の貴重な経験を今後、学内外また社会に出てからも活かしていくことを願い、文学部はこれからもこうした貴重な学びの機会を引き続き学生たちに提供していきます。

KCC-JEE 前会長 D.J. サーケルソン先生来校

2012年11月11日から1週間、KCC-JEE前会長のD. J. サーケルソン先生が学院の来賓として来校されました。先生は28年間アメリカ赤十字に勤められた後、現在、ミネソタ大学で教鞭をとられています。

以前より、「神戸女学院のために何かお役に立ちたい」というご希望をお持ちでしたが、ご多忙のため、なかなか機会がありませんでした。今回、幸いにも先生を文学部のプログラムでのご講演をメインとして学院にお迎えすることができました。

滞在期間中、先生には総合文化学科の専門科目「メディアリテラシー入門」（景山佳代子専任講師担当）でゲストスピーカーとして話をしていただいたり、文学部専門研究会や研究所主催のアッセンブリーアワーで講演をしていただいたりしました。温かく誠実な先生のお人柄に触れて、感銘を受けた方も少なくないことでしょう。講演の後は、教職員の方々と懇談の時をもつことができました。

学院主催の歓迎会や、インターンシップでお世話くださった学生を含む学生たちとの交歓会、中高部にKCC-JEEが派遣してくださっている先生方を含む教職員との会合などを精力的にこなされました。また、華道部でのいけばな体験や文楽鑑賞、タルカット先生のお墓参りと、盛りだくさんの一週間をお過ごしいただきました。

今回の先生の来校が、神戸女学院とKCC-JEEの交流を一層充実させることにつながるものと思います。

2012年度 音楽学部定期演奏会

2012年度の音楽学部定期演奏会は、昨年12月4日（火）午後6時30分より兵庫県立芸術文化センター KOBELCO 大ホールで開催されました。

ヘンデルの「メサイア」は、神戸女学院にとって100年以上前から歌い継がれてきた特別な曲です。最近では4年に1度、オリンピックイヤーに定期演奏会の演目として取り上げられています。



演奏は中村健教授指揮のもと、ソプラノ齊藤言子教授、アルト西明美教授、テノール松本薫平准教授、バリトン萩原寛明非常勤講師の4名のソリストが好演し、男声合唱には神戸中央合唱団、新月会、同志社グリーンクラブ他、多くの協力グループ、そして森院長、飯学長をはじめ本学教職員の参加もあり、心強く、誇らしくもありました。

毎回、男声コーラスの確保が課題となっていますが、今回は大学生から80代のベテランまで充実した合唱団メンバーでの演奏が実現しました。このことは女学院生たちが女声パートを一層張り切って歌う大きな刺激となりました。また、オーケストラには卒業生のチェンバロ下西美都、オルガン片桐聖子両名がゲスト出演し、華を添えてくれました。

ヘンデルの「メサイア」にはさまざまな版があり、前回はモーツァルト版での演奏でした。これは管楽器が付加された版で、大きな会場を考慮しての選択として効果がありましたが、今回はオルガンを適所に配することにより原典版での演奏が実現しました。

本年度から座席はすべて指定席となり、会場前に長時間お並び頂くこともなくゆっくりご来場いただけました。今回の定期演奏会は1000名近い来場者を迎えることができ、盛況のうち終わることがで

きました。寒いなか足を運んでくださった皆様、演奏を支えて下さったスタッフの皆様にご心より感謝申し上げます。

舞踊専攻第7回定期公演

舞踊専攻第7回定期公演は、3月7日、8日に兵庫県立芸術文化センター中ホールにて行われました。今回の公演は三部構成で、まず一部の1作品目が客員准教授のグラハム マッケルビー先生振付によるUNRAFFLED LAKEでした。グラハム先生の祖母にあたる方の若い頃の姉妹との湖での思い出を表現した美しい作品で、1年間を通して先生の授業の中で使われたステップを振付の中に取り入れることによって、とてもまとまった作品に仕上がっていました。この作品は、2年生によって踊られました。一部2作品目は、去年3年生、4年生によって踊られましたALBUMを今年の3年生、4年生によってリニューアルし発表いたしました。この作品を躍り込むことによって、3年生は大きな成長を遂げたと思います。第二部の1作品目は、舞踊専攻開設以来、毎年1、2年生によって踊られますHERE WE ARE!で、今年は通常の18名ではなく20名での発表となりましたので、演出や振付に手を加え、新しいHERE WE ARE!をご覧頂けたと思います。二部2作品目は非常勤講師の鞍掛綾子先生振付によるGOIYAを3年生が踊りました。先生のユニークな制作方法によって創られましたこの作品は、先生が影響をお受けになられたイスラエルの音楽などを使い、異国情緒の漂う力強い作品でした。そして第三部は、4年生とゲストの男性ダンサー達によって踊られましたFOR TOMORROWです。この作品は、振付者である島崎教授が、技術的に学生という域を超えた要求をすることを恐れずに創り上げた作品で



す。4年間の学生生活のなかで培った全てを出し切らなければ表現し得ない作品に、学生達は勇敢に挑みました。2日間に及ぶ公演でしたが、やはり表現者にとっては、舞台上に立ち発表することによってのみ達成されるものがあるということを今回の舞台を通して多くの学生が感じ、この先の舞踊人生に役立てて行くことでしょう。

音楽系3大学連携プログラムの 取り組みについて

東京音楽大学、昭和音楽大学との音楽系3大学連携による教育プログラムとして、3大学をインターネット会議システムで繋いだ共通授業「ミュージック・コミュニケーション講座」を各大学からの配信によって計5回実施しました。さらにその一環として、8月29日から9月1日まで東京音楽大学で3大学学生合同の夏期セミナーを行い、講師として英国ロンドン市バービカンセンター&ギルドホール音楽院からショーン・グレゴリー先生と助手のデッタ・ダンフォード（フルート奏者）、ナターシャ・ジェラジンスキ（チェロ奏者）を招聘し、クリエイティブ・ラーニングのワークショップ研修を行ないました。最終日には公開シンポジウム「音楽とアートで広げるコミュニケーションの力」を開催し、100名近い参加者を得ました。



今年度の新しい取り組みとして、ギルドホール音楽院との交換学生を実現しました。まず10月にタラ・フランク（英国人のチェロ奏者）とイシュマエル・アフラ・サッキー（ガーナ人の打楽器奏者）が来日し、本学で3日間の「音楽ワークショップ集中研修」を行い、最終日に「子どものための音楽作りワークショップ」を実施しました（学生34名と

近隣の小学生39名が参加）。2月には本学の学生2名（3回生の廣瀬紀衣と増田明日香）と東京音楽大学の学生1名をロンドンに派遣し、ギルドホール音楽院のリーダーシップ・コースの実習に参加した上で、バービカンセンターの舞台での発表（Dialogue Project, 2013年2月25～27日）に加わり、大きな成果を上げることができました。

他に、ピアニスト仲道郁代氏の学校訪問ワークショップ（9月6日、尾道市向島中央小学校）に本学学生12名が参加し、読売新聞等で報道されました。また、年度末には本プロジェクトの平成24年度活動報告書を刊行し、音楽高校や音楽大学、音楽関係機関に送付しました。

ESD留学生とインターナショナルハウス

神戸女学院正門近くのキャンパス隣接地に「Kobe College International Students House」（インターナショナルハウス）が誕生しました。建物と敷地はもともと個人の邸宅でしたが、学院がこれを買受け、海外からの留学生の寄宿舎として利用することにしました。緑濃い岡田山の懷に抱かれた場所にたたずむ建物は、個性的な外観や庭はそのまま生かし、内部の改装工事によって、和洋いろいろの居室用プライベートルーム、留学生の集えるリビング・ダイニングルーム、キッチン、シャワールームなどを備えた施設に生まれ変わり、9月24日に開設式が行われました。

9月末から、さっそく本学人間科学研究科のESD（Education for Sustainable Development、持続可能な開発のための教育）プログラムに参加するためにやってきた留学生5名がインターナショナルハウスでの生活を始めました。このプログラムは、科学



技術振興機構の助成を受けている事業「地域からESDを推進する女性環境リーダー養成」で、アジア各国や日本の環境問題の現状と対策を学び、日本の先進的な市民活動による取組みの方法論を身につけることを目的とした1年間の教育研修プログラムです。2010年10月からアジア諸国の留学生を受け入れ、2012年度は5名の留学生を受け入れました。

居住環境、勉学環境については、ESD推進室や人間科学部事務室のスタッフが留学生と密にコミュニケーションをとりながら整備を進めてきました。キャンパス隣接地に立地するおかげで、留学生の通学がたいへん楽になったことも勉学に励む上で大きな要素になっています。留学生たちは、ときにお国自慢の料理の腕をふるいあったり、誕生日パーティーを開いたりして日本での生活をエンジョイしつつ、ESDのための学びに打ち込んでいます。

神戸女学院大学第3回絵本翻訳コンクール

多くの高校生に、課題図書の翻訳をとおして世界の多様な文化に興味を持ってもらい、「神戸女学院大学の翻訳」の認知度を向上させたいとの意図でスタートした絵本翻訳コンクール。2012年で3年目を迎え、継続的に取り組んで応募して下さる高校も増えてきました。

今年度の課題図書はアイルランドで出版された“Olanna's Big Day”という絵本。アイルランドの国民的祭典である聖パトリック祭を舞台に、ナイジェリアから移住してきた元気いっぱいの少女と、学校のブラスバンドが力を合わせてパレードに参加する物語です。日本全国の高校164校（昨年82校）から652の翻訳作品（昨年は252作品）が寄せられました。今年は初めて男子生徒から受賞者が出るなど、関心の輪はますます広がっています。クラスやグループで取り組んでいる学校、学校のホームページで取り組みが紹介された例など、各校のご支持があつてのことと心から感謝しています。

和訳のクオリティもますます上がり、審査員3名（卒業生で翻訳家・児童文学者の松岡享子氏、本学の豊倉省子講師、田辺准教授）も選択に迷うほどの出来栄でした。受賞者は優秀賞が静岡雙葉高校と県立北須磨高校、佳作が福岡中央高校、京都府立北陵高校、県立芦屋高校の各チーム。授賞式は10月

27日（土）、本学KCCルームに受賞者・保護者・指導教員を招いて行われました。式では飯学長から翻訳をとおした隣り人への思いやりについて、松岡氏から文化のはざまに立つ翻訳という行為の重さについて話がありました。最後は受賞者による作品朗読、そして若さあふれるあいさつに一同、感動を覚えた1日でした。



なお、応募作が力作ぞろいであったことから、本年からは最終選考に残った25作品について、所属校にその旨をお知らせする試みを行いました。最終選考に残ったことを知った生徒・先生方から「大変励みになった」との声が寄せられ、次年度に向けて意欲を高めていただけたと思います。

4 高大連携

文部科学省のすすめている高等学校と大学との接続において、一人ひとりの能力を伸ばすための高大連携施策として、本学においても出張講義（大学教員が高校に出かけ、専門分野別講義を行う）、招聘プログラム（高校生を本学に招き、授業体験、大学

生活体験を提供する）、理学館体験プログラム（人間科学部の研究室、理学館の実験室を体験することでバイオサイエンスを実感してもらう）、聴講プログラム等様々な取組を実施しています。

●出張講義実施状況

担当学科	件数	担当教員
文学部 英文学科	11	立石浩一、和氣節子、松尾歩、David G. McCULLOUGH、中村昌弘、田辺希久子、奥村キャサリン
文学部 総合文化学科	1	難波江和英
人間科学部 心理・行動科学科	10	國吉知子、鶴田英也、木村昌紀
人間科学部 環境・バイオサイエンス学科	2	塩見尚史、寺嶋正明
計	24	

●招聘プログラム実施状況

	実施日	担当教員	テーマ
県立西宮高等学校	8月27日	人間科学部 心理・行動科学科	鶴田英也 カウンセラーの話の聴き方
	8月28日	人間科学部 環境・バイオサイエンス学科	西田昌司 哺乳類の系統解剖ーマウスの解剖実習ー
大阪信愛女学院 高等学校	11月1日	人間科学部 心理・行動科学科	木村昌紀 こころを伝える・理解するーコミュニケーショの心理学ー
	11月1日	人間科学部 環境・バイオサイエンス学科	横田弘文 生活排水の水質について調べてみよう
和歌山信愛女子短期 大学附属高等学校	11月9日	文学部 総合文化学科	河西秀哉 神戸女学院に天皇がやって来たー象徴天皇制形成の歴史ー
金蘭会高等学校	12月11日	人間科学部 心理・行動科学科	木村昌紀 こころを伝える・理解するーコミュニケーショの心理学ー
大阪女学院高等学校	12月13日	人間科学部 心理・行動科学科	鶴田英也 カウンセラーの話の聴き方
上宮高等学校	3月21日	文学部 英文学科	奥村 キャサリン 通訳とコミュニケーション

●聴講プログラム実施状況（神戸女学院高等学部対象）

		受講者数	受講科目数	合格者数
2008年度	前期	4	4	4
	後期	5	4	4
2009年度	前期	9	4	7
	後期	13	7	4
2010年度	前期	15	6	3
	後期	1	1	1
2011年度	前期	13	7	10
	後期	12	7	5
2012年度	前期	12	7	10
	後期	10	7	8

●体験プログラム実施状況

	日程	担当教員	講義テーマ	参加者	
環境・バイオサイエンス学科	高校教員対象 サイエンス体験	8月1日	寺嶋正明	分子の大きさに基づく生体分子の分離精製	9名
	サイエンス体験	8月2日	西田昌司	個性豊かな細胞たち ーからだをつくる細胞を染め分けてみようー	21名
			横田弘文	家庭排水の水質を調べてみよう	13名
		8月25日	野寄玲児 塩見尚史	どんぐりの秘密 ー森の樹木の世界を知ろうー 微生物をもっと知ろう	16名 15名
	理学館体験	6月23日	野寄玲児	学科説明会・施設見学会	31名
		9月17日			48名
		12月8日			16名
		3月23日			20名
	県立西宮高校 高大連携	11月5日	出口 弘	情報科学入門 ーコンピューターの基本原理に触れて、パズルを解いてみよう！ー	1名
		11月9日	遠藤知二	なぜ生物多様性を守るのか	1名
		11月19日	中川徹夫	環境に優しいマイクロスケール実験 ールシャトリエの原理をマイクロスケール実験で学ぼうー	6名
		11月26日	張野宏也	化学物質による水環境汚染	5名
	動物実験講習会 (マウスの年間使用匹数：95匹)	6月9日	西田昌司		20名
		6月16日			18名
		8月28日			9名
		12月1日			19名
12月8日		19名			
オープンキャンパス					
第4回公開プレゼンテーション ー地域創りリーダー養成プログラム活動報告会ー	8月5日	小林知博 張野宏也	みんなで楽しく農体験♪ ー Let's 収穫 Let's est ー まなんで、あそぼう、水のこと in 甲山 学んで、探そう、植物のこと in 神戸女学院大学 みんなで楽しく農体験♪ ー Let's 収穫 Let's est ー Cooking ♪	43名	

5 地域貢献

春季公開講座 笑い			
第1回	6月16日	笑う—外に出す・言葉にする・体験に基づく知識— 岩田泰夫（文学部総合文化学科教授）	125名
第2回	6月23日	笑いの思想・笑いの文学 大橋完太郎（文学部総合文化学科専任講師）	175名
第3回	6月30日	笑い与健康—心理学の研究から— 小林知博（人間科学部心理・行動科学科准教授）	200名
			【延べ参加人数 500名】

秋季公開講座 メディアとコミュニケーション			
第1回	11月17日	コミュニケーション—出会い。岡田山キャンパスを想うあるアメリカ人。 内藤 能氏（近畿大学文芸学部教授）	44名
第2回	11月24日	災厄・映像・文学 9・11と11年の持続 高村峰生（文学部英文学科専任講師）	74名
第3回	12月1日	メディアと‘事実’ 景山佳代子（文学部総合文化学科専任講師）	77名
			【延べ参加人数 195名】

大学研究所主催 講演会			
6月29日	岡田山キャンパスの自然—大学キャンパスの自然誌— 野崎玲児（人間科学部環境・バイオサイエンス学科教授）		110名
11月16日	KCC-JEE と神戸女学院 David Therkelsen 氏（KCC-JEE 前会長）		60名
			【延べ参加人数 約170名】

女性学インスティテュート主催 特別講演会			
4月27日	三美神をめぐって 濱下昌宏（本学名誉教授）		
			【参加人数 約120名】

女性学インスティテュート主催 連続セミナー 文学の中の女 —歩く女—			
第1回	5月25日	浮遊する日系少女 吉田純子氏（元文学部英文学科教授）	
第2回	6月1日	越境する言葉と身体—多和田葉子をめぐって 孟 真理（文学部総合文化学科教授）	
第3回	6月8日	阿仏尼『十六夜日記』の世界 藏中さやか（文学部総合文化学科教授）	
第4回	6月15日	モダンガール、歩く 飯田祐子（文学部総合文化学科教授）	
			【受講者 25名 修了証交付 13名】

女性学インスティテュート主催 学外講演会 於：西宮市大学交流センター			
第1回	10月9日	バイリンガルの子どもたちによる、会話の理解と認知の発達について 松尾 歩（文学部英文学科准教授）	19名
第2回	10月24日	近代に女性天皇が排除されたのはなぜ？ 河西秀哉（文学部総合文化学科専任講師）	15名
			【延べ参加人数 34名】

宗教センターアッセンブリーアワー 金曜日公開プログラム		
4月20日	さんぴかを歌おう♪ 斉藤言子（音楽学部教授）	110名
5月18日	モーツアルテウム&神戸女学院大学フレンドシップコンサート Poul Roczek 氏（ヴァイオリン モーツアルテウム音楽大学教授） Clemens Gordon 氏（ヴィオラ モーツアルテウム音楽大学） Hannah Vinzens 氏（チェロ モーツアルテウム音楽大学） 辻井 淳（ヴァイオリン 音楽学部准教授） 佐々由佳里（ピアノ 音楽学部教授）	260名
6月15日	ESD 学生研究発表会 大学院 人間科学研究科	50名
6月22日	オルガンコンサート 片桐聖子（学院オルガニスト・日本基督教団神戸教会オルガニスト・本学卒業生） 前田直子（学院オルガニスト・日本基督教団豊中教会オルガニスト・本学卒業生）	160名
7月27日	礼拝 松田 央（大学チャプレン・文学部総合文化学科教授）	23名
9月28日	礼拝 飯 謙（学院チャプレン・学長）	36名
10月5日	卒業生によるコンサート 山田愛子氏（メゾ・ソプラノ） 三浦夏実氏（ピアノ）	110名
11月9日	宗教音楽の会 大学院 音楽研究科1年	90名
12月7日	クリスマスオルガンコンサート 西山聡子（学院オルガニスト・日本基督教団大阪教会オルガニスト・本学卒業生） 追中宏美（日本基督教団須磨教会オルガニスト・本学卒業生）	150名
12月14日	キャロルを歌おう♪ 斉藤言子（音楽学部教授）	80名
2013年 1月11日	新年礼拝 中野敬一（チャプレン・文学部総合文化学科准教授）	50名
1月18日	特別講演会 Graham F.McKELVIE（音楽学部客員准教授）	60名
【登録人数 190名、延べ参加人数 1,179名】		

文学部主催 講演会		
7月15日	ジョブズの世界を訳す 井口耕二氏（翻訳者・文学研究科非常勤講師）	153名
12月1日	夢をあきらめないで～夢をかなえるために～ 植田景子氏（宝塚歌劇団演出家・本学卒業生） 三好万記子氏（料理研究家・本学卒業生） 谷野まりえ氏（舞台女優・本学卒業生）	60名
2013年 3月20日	柴田元幸『翻訳教室』at Kobe College 柴田元幸氏（東京大学大学院教授・アメリカ文学研究者）	150名
【参加人数 363名】		

音楽学部・兵庫県少子対策本部主催 まちの寺子屋師範塾「子どもと音楽」		
第1回	10月11日	音楽の中に見る子供の心 田中修二（音楽学部教授）
第2回	10月18日	音楽による発達障害の子育て支援 一講演とミニコンサートⅠ 中村 健（音楽学部教授） ゲスト：中村 徹氏
第3回	10月25日	音楽による発達障害の子育て支援 一講演とミニコンサートⅡ 中村 健（音楽学部教授） ゲスト：中村 徹氏
【参加人数 15名】		

音楽学部主催 音楽学部コンサート			
4月19日	2012年度 神戸女学院大学音楽学部新人演奏会	いずみホール	335名
4月26日	神戸女学院大学大学院音楽研究科 第11回 修士課程修了披露演奏会	宝塚ベガホール	188名
6月26日	ベガにオーケストラがやってきた! Vol. 3 ～神戸女学院大学音楽学部オーケストラ in 宝塚～ 〈第19回サマーコンサート〉	宝塚ベガホール	337名
10月4日	第19回 オータムコンサート	兵庫県立芸術文化センター 神戸女学院小ホール	287名
11月14日	神戸女学院大学大学院音楽研究科2年生による 音の饗宴 Vol. 6	兵庫県立芸術文化センター 神戸女学院小ホール	214名
11月29日 11月30日 12月1日13時 12月1日18時	神戸女学院大学音楽学部音楽学科舞踊専攻 第4回 卒業公演	神戸女学院大学 エミリー・ブラウン記念館 地下2階 スタジオA	117名 105名 120名 121名
12月4日	神戸女学院大学音楽学部 2012 定期演奏会 —Händel— MESSIAH	兵庫県立芸術文化センター KOBELCO 大ホール	875名
2013年 2月25～27日	2012年度卒業生 卒業演奏会	神戸女学院講堂	401名
3月7日 3月8日	神戸女学院大学音楽学部音楽学科 舞踊専攻 第7回公演	兵庫県立芸術文化センター 阪急中ホール	492名 540名
【延べ入場者数 4,132名】			

音楽学部主催 子どものためのコンサート・シリーズ		
7月7日	第34回 子どものためのセタコンサート ～音で心をつなげよう～	641名
12月15日	第35回 子どものためのクリスマス・コンサート ～いろいろな声をかさねてみよう!～	688名
【延べ入場者数 1,329名】		

音楽学部主催 子どものための音楽作りワークショップ	
10月20日	第3回 音で遊ぼう! 子どものための音楽作りワークショップ
【音楽学部生 27名、近隣の子どもたち 39名】	

人間科学部 心理相談室主催				
	日程	担当教員	講義テーマ	参加者
アウトリーチ活動	6月7日	石谷真一	コンサルテーション (常光寺幼稚園)	
	10月25日	小林哲郎	講演「学校と保護者のよりよい関係を目指して」(今津小学校)	約 50名
	12月7日	小林哲郎	講演「学校と保護者のよりよい関係を目指して」(県立西宮高校)	約 50名
心相ウィーク (講演会)	8月1日	須藤春佳	講演会「友人関係の喜びとむずかしさ ～児童期から思春期の発達課題と友人関係～」	約 60名
シンポジウム	3月2日	水田一郎	「思春期・青年期の攻撃性とコミュニケーション ～キレルこと・悩むこと～」 藤田 博康氏 (帝塚山学院大学大学院教授・臨床心理士・家 族心理士 (元家庭裁判所調査官))	約 80名
【延べ参加人数 約 240名】				

人間科学部主催・開催				
	日程	担当教員	講義テーマ	参加者
地域創りリーダー 養成プログラム イベント	8月1日	出口 弘	竹でエコっちゃおう！プロジェクト	15名
	11月24日	鶴田英也		13名
	8月12日	小林知博	みんなでワクワク農体験ー夏、秋の旬ってなんだろうー	31名
	11月18日	張野宏也		
	11月12日			
	11月18日	出口 弘 鶴田英也		29名
	8月18日	遠藤知二	見つけよう！山の季節♪	11名
11月26日	張野宏也	13名		
11月18日	遠藤知二			
	9月22日	出口 弘 小林知博	自然の中で遊ぼう！みんなで作ろう！飯盒炊さん！	6名
	11月25日	出口 弘 張野宏也	ケーキを作ろう！友達を作ろう！ーベジタブルをベジタブルー	8名
こどもサイエンス 体験教室	3月23日	張野宏也	身近なものをういて pH を測定してみよう	20名
自然にふれあう 体験型環境学習 (西宮市立甲東小学 校3年生)	5月10日	野寄玲児	「自然観察ー調べよう甲東の自然ー」	164名
	7月11日			163名
	10月17日			168名
	12月12日			169名
	3月6日			169名
尼崎フォレストの会	12月10日	野寄玲児	種子採集および自然観察会	15名
平成24年度西宮市 生涯学習大学 「宮水学園」 マスター講座	5月14日	三宅志穂	ひとが自然を理解する仕方 1：日本の事例	30名
	5月28日		ひとが自然を理解する仕方 2：海外の事例	
	6月11日		ひとが自然を理解する仕方 3：体験して学ぶ自然	
	6月25日	横田弘文	身の回りの化学物質との上手な付き合い方を知る ー化学物質の有害性と危険性ー	約 50名
	7月9日		身の回りの環境に目を向ける ー西宮市に生息する野生メダカの現状ー	
	7月23日		身の回りの化学物質と地球環境問題との関係を知る ー自らの二酸化炭素排出量と地球温暖化ー	
	人と環境：身の回り からグローバルまで	8月6日	張野宏也	水をとりまく環境問題 地域からグローバルまで 1：命の水
8月27日		水をとりまく環境問題 地域からグローバルまで 2：海洋汚染		
9月10日		水をとりまく環境問題 地域からグローバルまで 3：土壌および地下水汚染		
9月24日		水をとりまく環境問題 地域からグローバルまで 4：水処理の最近の動向		
猪名川町主催	3月23日	横田弘文	メダカの学校 2013in いながわ	1,000名
シニア自然大学	5月30日	遠藤知二	昆虫の生態と分類	25名
	6月2日		昆虫観察	25名
朝日新聞社	8月25日	遠藤知二	朝日親と子の自然環境室	38名
コープこうべ	6月24日	遠藤知二	昆虫調査&採集イベント	41名
	10月28日			23名

【延べ参加人数 約 2,266名】

6 その他の事業

	学 院	大 学
4月	新任教職員就任式	入学式、入寮式 新入生歓迎会・オリエンテーション、登録ガイダンス 新入生対象ITオリエンテーション・キャンパスツアー フレッシュマンキャンプ（六甲セミナーハウス、ウェスティンホテル 淡路、南淡路ロイヤルホテル）
5月	創立者記念日墓前礼拝 愛校バザー	春季教授会研修会 大学職員SD研修会Ⅰ
6月	神戸女学院春季公開講座	家庭会大学部会総会・保護者懇談会（本学） 保護者懇談会（奈良） フィリピン、アザンブション大学研修プログラム（本学） 前期学生による授業評価アンケートの実施 オープンキャンパス
7月	学院リトリート	保護者懇談会（福岡） 音楽学部夏期講習会（本学） 教員免許状更新講習（英語）（本学英文学科）
8月		夏のオープンキャンパス 夏期語学研修（西オーストラリア大学、サセックス大学、カナダ ヨーク大学、フランシュ・コンテ大学）
9月	Kobe College International Students House 開設式	大学職員SD研修会Ⅱ オープンキャンパス ESD推進プログラム修了式
10月		秋季教授会研修会 大学祭 保護者懇談会（本学・第2学年対象） インド、聖ジョセフ・カレッジ・オブ・コマース学生交流プログラム（本学）
11月	神戸女学院秋季公開講座 宗教強調週間	宗教強調週間 一般入試説明会（難波） 保護者のための就職セミナー 後期学生による授業評価アンケートの実施・授業公開
12月	クリスマス礼拝	IP-TOEIC 全学部1年生対象テスト クリスマスオープンキャンパス
1月		
2月		IP-TOEIC 全学部2年生・通訳プログラム受講生・英文学科3年生対象テスト 卒業研究発表会 春期語学研修（梨花女子大学、クイーンズランド大学、英国ヨーク大学）
3月		ハラスメント防止のための教授会研修会 学位記授与式 大学職員SD研修会Ⅲ ミニ懇話会 春のオープンキャンパス

	中高部	中高部 生徒の活動
4月	J1オリエンテーション J1デイキャンプ(1)(2) 中学部入学式、高等学部入学式 宗教部主催修養会(水上隣保館訪問) PTA総会 春の遠足 春の子ども会(S自治会・関学共催)	第66回会長杯争奪卓球大会カデットの部中学2年生の部:第3位(J2生) 第28回成田山全国読書大会:成田山賞(S3生、S2生)、読売賞(S2生、S1B)
5月	聖書を学ぶ会(6,10,1,2月の計5回) PTA岡田山散策会 教育実習	第10回西宮市教育長杯カデット卓球大会:準優勝(J2生)
6月	体育祭 人権学習会 PTA文化講演会 宗教部・自治会共催修養会(釜ヶ崎訪問)	第1回EF Grand Prix English Contest:優勝(S1生) 兵庫県私立中学第8回英語レシテーション・コンテスト:第1位(J3生)、第2位(J3生) 兵庫県私立高校第8回英語スピーチ・コンテスト:第2位(S3生) 西宮市総合体育大会卓球大会下級生の部団体の部:準優勝(J2生5名、J1生5名) 平成24年度近畿高等学校選抜テニス大会新人の部:第3位(S2生)
7月	芸術鑑賞会 JS校内大会 リーダーシップ・トレーニングキャンプ 宗教部主催修養会(長島愛生園・邑久光明園訪問)	第56回兵庫県中学校総合体育大会テニス競技団体の部:第3位(J3生6名、J2生4名) 第25回大阪地区・学生いけばな競技会団体の部:準優勝(S2生6名、S1生) 第39回全国中学生テニス選手権大会団体の部近畿地区代表決定戦:第5位(J3生6名、J2生4名)
8月	夏山登山 宗教部主催修養会(広島訪問) 訪豪研修旅行	第36回全国高等学校総合文化祭囲碁部門都道府県団体戦:第3位(S2生) 第79回NHK全国学校コンクール音楽コンクール中学校の部:兵庫県教育委員会賞(J3生8名、J2生12名、J1生10名) 阪神ESSユニオンシナリオリーディングコンテスト:第1位:(S1生6名) 2012年度兵庫県合唱コンクール中学校・高等学校の部:銀賞(S2生6名、S1生3名) 第17回全日本高校大学生書道展:書道展賞(S2生2名)
9月	教職員研修会 文化祭 キャンパス見学会	西宮市新人大会中学校卓球大会:準優勝(J2生3名、J1生5名) ブリガム・ヤング大学ハワイ校第14回全国高校生英語スピーチコンテスト関西地区第二地区予選:第3位(S1生) 西宮市中学校新人大会第7回バドミントン競技大会女子団体:第2位(J2生6名) 第61回チャールズ杯争奪全日本高等学校生英語弁論大会:第6位(S1生) 第1回クラーク・IPC杯中学生英語暗唱コンテスト:Best Performance賞(J3生)
10月	S2修学旅行、J3小旅行 S1一泊研修 J1、J2、S3遠足 防災訓練	正筆会第14回全国学生公募誌上展硬筆の部:会長賞(J3生) 西宮市市長杯争奪卓球選手権大会:第3位(J1生) 第40回兵庫県私立学校読書感想文コンクール:特選(S2生2名、J2生)、入選(J2生)、佳作(S2生、J2生) 第59回高等学校英語弁論大会:第2位(S2生) STU杯高校生英語スピーチコンテスト:敢闘賞(S1生) 第57回兵庫県高等学校対抗テニス新人大会団体戦:第5位(S2生6名、S1生3名)
11月	宗教強調週間 PTA宗教講話 キャンパス見学会 秋の子ども会 人権学習会 PTAクリスマス礼拝	第47回近畿中学生英語暗唱大会:第5位(J3生) 第20回薫英杯女子中学生英語スピーチコンテスト大会:第6位(J3生) ゲーンズ杯高校生英語スピーチ・コンテスト2012:優勝(S2生) 第36回兵庫県高等学校総合文化祭囲碁部門女子個人戦:第2位(S2生) 第8回英語スピーチコンテスト:優勝(S1生) 第61回チャールズ杯争奪全日本高等学校生英語弁論大会:第6位(S1生) 第9回兵庫県中学校秋季テニス大会学校対抗の部:第3位(J2生9名、J1生) 第32回近畿高等学校総合文化祭囲碁部門(県男女)団体:優勝(S2生) 税に関する書道:西宮納税貯蓄組合連合会長賞(J3生4名) 第51回全国高等学校生徒英作文コンテスト:優良賞(S3生、S2生)
12月	クリスマス礼拝 宗教部・自治会共催修養会(釜ヶ崎訪問)	第58回青少年読書感想文兵庫県コンクール:兵庫県知事賞(S2生) 第1回近畿高校囲碁選手権大会個人戦女子の部:第3位(S2生)
1月	文化スポーツ賞・部長賞表彰式 中学部入試	全国私立高等学校テニス選手権女子シングルス:ベスト16(S2生) 第41回高校生英語弁論大会:優秀賞(S1生) 第52回兵庫県私学総連合美術展中学の部:奨励賞(J3生)
2月	人権学習会	阪神ESSユニオン英語スピーチコンテスト:第3位(S1生) 第58回青少年読書感想文全国コンクール:全国学校図書館協議会長賞(S2生) 西宮市民テニス大会中学生の部:ダブルス優勝(J3生、J2生)、ダブルス2位(J3生2名)、シングルス2位(J2生) 第29回全国年賀はがきコンクール:学年優勝杯(J1生)
3月	高等学部卒業式 PTA常任幹事会 讚美歌コンクール 中学部卒業式	

Jは中学部、Sは高等学部、数字は学年を示す

7 施設・設備

中高部1号館サッシ改修・壁面塗装工事

----- 28 百万円

年次計画的に中高部のサッシ取替を実施しており、今回は南側・西側のサッシ40枚を改修しました。工事の特徴として、強化ガラスを採用し、サッシの改修と共にクラック・浮き補修、及び外壁塗装をおこないました。1998年からサッシ改修を始め、2012年度で全ての中高部1号館のサッシ改修を終えることができました。



年劣化による腐食が多く見られました。改修にあたっては、冷暖房器を一体化した機器を選定し、利便性等を考慮した改修工事を実施しました。また空調改修に合せ、天井材を不燃材料に改修しました。

西門道路拡幅工事

----- 29 百万円

正門通学路はタクシーを含めた車両の往来が多く、西門道路に車両を迂回させ学生・生徒の安全を確保する必要性がありました。そのためには、西門道路を利用する車両が相互に通行出来る幅員を確保する必要があり、道路の拡幅工事を行いました。また、理学館西側のタクシーの乗降場所に於いても、回転場所が狭く車両の渋滞が予想されるため、回転場所の拡幅工事を行いました。



タルカット館冷暖房機取替工事

----- 21 百万円

タルカット記念館の冷暖房の熱源は1991年の設置から20年以上経過しており、機器の劣化に依る故障や機器効率の低下があったため、熱源の更新をおこないました。更新により室内環境の確保及びランニングコストの削減が期待されます。



倉庫(4)新築工事

----- 38 百万円

以前から簡易な倉庫が建っていましたが、ホルブルック記念館建設にあたり施工ヤードとして敷地を使用する必要があったため解体され、2012年3月のホルブルック館竣工時に、元の敷地に鉄骨造2階建てを新築しました。1階は倉庫兼作業場、2階は諸工事の際に作業員が使用出来る休憩場所を用途として新たに設置しました。



理学館空調設備及び天井材改修工事

----- 54 百万円

竣工当時から使用してきた床置き暖房用蒸気放熱器は79年間使用しており、放熱器の漏水や配管の破損が多岐にありました。また、冷房設備に於いても設置後32年経過しており、天吊の室内機には経

8 入試に関する状況

● 神戸女学院大学

[2013年度入試概況]

今年度も昨年同様、長引く不況を色濃く反映して学費の安い国立大学志向、地元志向、資格重視の傾向が続いています。全国的に見ても資格、実学を重視した大学は志願者を増加させ、教養教育を謳っている大学は減少している傾向が見られます。このような動向の中、本学においては入試制度を大幅に変更していないことがさらに拍車をかけたと考えられますが、志願者数が昨年度比 86.6% と大幅に減少しました。

しかしながら各入試制度において慎重に合否判定を実施した結果、今年度も必要想定者に近い入学人数を確保することができました。

受験生及び保護者の志向等を考慮に入れつつ、受験生減少に歯止めがかかるよう次年度以降も積極的に学生募集活動をおこない、安定的な入学人数を確保するよう努めます。

オープンキャンパスほか学校見学会 来場者数

開催日	名称	人数
6月23日	オープンキャンパス	390
8月4日	夏のオープンキャンパス	884
8月5日	夏のオープンキャンパス	999
9月17日	オープンキャンパス	621
11月23日	一般入試説明会（なんば / 難波）	32
12月8日	オープンキャンパス	227
3月23日	オープンキャンパス	383
総計		3,536

学外進学相談会

地区	対面	資料	計
北海道	0	1	1
福井	1	1	2
静岡	3	0	3
愛知	3	0	3
京都	2	1	3
大阪	11	1	12
兵庫	6	3	9
和歌山	0	1	1
岡山	4	0	4
広島	4	1	5
徳島	2	0	2
香川	3	0	3
愛媛	1	0	1
高知	1	1	2
福岡	3	0	3
総計	44	10	54

対面 … 各会場に本学ブースを設置し、スタッフによる相談を実施

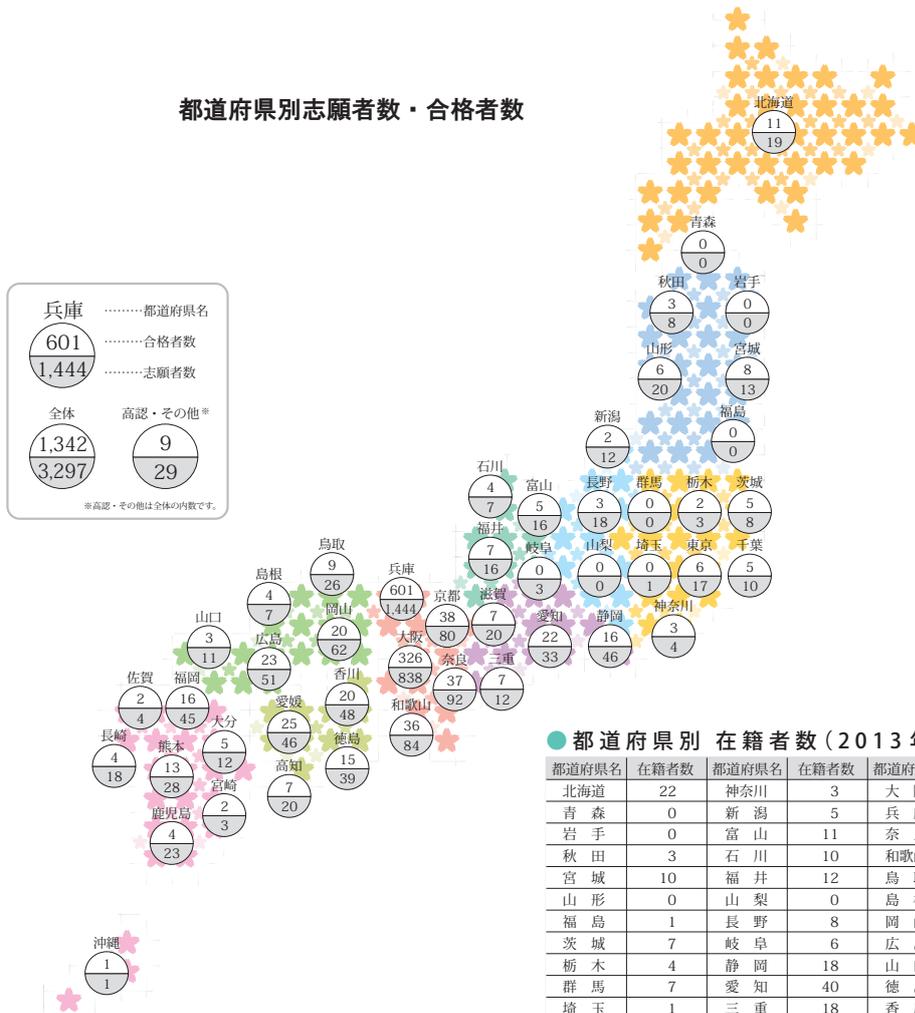
資料 … 会場において本学資料を配布

入試制度別状況

	志願者数	受験者数	合格者数	実質競争率	
一般入学試験・前期A日程	688	684	266	2.6	
一般入学試験・前期B日程	591	583	208	2.8	
一般入学試験・前期C日程	454	309	123	2.5	
一般入学試験前期D日程	センター1科目型	249	166	70	2.4
	センター2科目型	138	77	37	2.1
大学入試センター試験を利用する入学試験	2科目型	181	181	89	2.0
	3科目型	144	144	71	2.0
	4科目型	55	55	37	1.5
一般入学試験・後期日程	174	167	51	3.3	
公募制推薦入学試験	350	347	127	2.7	
AO入学試験	23	23	18	1.3	
帰国子女入学試験	3	3	3	1.0	
社会人入学試験	0	—	—	—	
外国人留学生入学試験	0	—	—	—	
編入学試験	0	—	—	—	

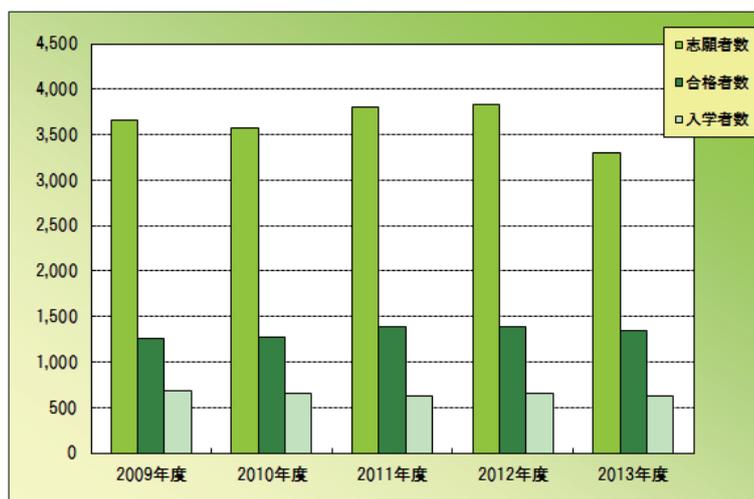
指定校制推薦入学試験は除く

都道府県別志願者数・合格者数



	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度
志願者数	3,660	3,573	3,816	3,825	3,297
合格者数	1,253	1,278	1,405	1,388	1,342
入学者数	687	651	629	655	623

2012年度 編入学試験で音楽学部1名入学



● 神戸女学院大学大学院

修士・博士前期課程

	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度
志願者数	64	55	46	48	40
合格者数	36	35	34	25	25
入学者数	32	32	32	23	23

博士後期課程

	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度
志願者数	5	2	1	4	3
合格者数	5	2	0	3	2
入学者数	5	2	0	3	2

● 神戸女学院中高部

中学部

	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度
志願者数	278	257	260	277	257
合格者数	158	157	150	153	153
入学者数	143	144	136	142	141

高等学部 全日課程 普通科 募集なし

9 留学に関する状況

● 神戸女学院大学・大学院

〔2012年度留学概況〕

本学の教育理念の一つである「国際理解の精神」の涵養を目指し、2012年度は「学生の海外派遣」「留学生の本学受入れ」「キャンパスでできる国際交流」を中心に国際交流事業を展開するとともに、海外大学との新たな協定並びにプログラムの開発に取り組んでまいりました。

2012年度「学生の海外派遣」としては、夏期に学生から要望の高かった行先であるカナダ（ヨーク大学）と、英語圏のみならず各国語のニーズにも対応するため、前年度の中国に引き続き、春期には韓国（梨花女子大学）への語学研修を、新たに企画・実施しました。

また、中期海外研修のカリフォルニア大学アーバイン校とクイーンズランド大学については、参加学生が前年度の2名から2012年度は14名となり、人数を大幅に伸ばすことができましたが、本プログラムの学生の人気と認知が高まってきていることが伺えます。

「留学生の本学受入れ」では、受入れ環境をより充実させるため、従来の海外からの留学生に英語で提供する日本文化を学ぶ“Introduction to Japanese Culture”と日本の現代事情を学ぶ“Current Issues in Japan”の正規の授業2科目に加え、留学生が希望する先生・科目・言語を自由に選択し、マンツーマンで授業が受けられる“Tutorial for Exchange Student”を国際交流センターで新たに開講しました。

また、海外の大学からの学生グループの短期滞在受入も積極的に取り込み、「キャンパスでできる国際交流」の機会を広げることを意図し、新たなプログラムへの対応や規模の増強をはかりました。4月には、外務省による21世紀東アジア青少年大交流計画（JENESYS Program）を通じて、フィリピンから25名の学生を受入れ、本学学生宅へのホームステイ、交流会並びに環境に関するディスカッションのプログラムを実施しました。それ以降も、5月には、前年度までは中止されていたワイオミング大学（アメリカ）オナープログラムとモーツァルテウム大学（オーストリア）、6月はアサンプションカレッ

ジ（フィリピン）、10月はセントジョセフカレッジ（インド）、11月はミリアムカレッジ（フィリピン）と、年間を通じ多くの海外からの学生を本学に招くことが出来ました。

上記モーツァルテウム大学、アサンプションカレッジ及びセントジョセフカレッジと本学との交流は、これまで主に音楽学部と文学部の教員が担当し実施されてきましたが、2012年度は、それらをベースとし、今後のさらなる交流を促進する大学間協定の調印へと結びつけることが出来ました。

加えて、海外の大学との新規協定では、2012年度は、新たに、イースト・アングリア大学（イギリス）との間で交換留学協定を締結しました。次年度より、双方の学生派遣、受入がスタートする予定です。

「キャンパスでできる国際交流」を目的としたプログラムには、留学生をサポートしながら交流を深める留学生バディ制度、ホストファミリー登録制度、外国人留学生たちとの交流会（歓送迎会や留学生バディ主催のクリスマスパーティ）、夏期休暇中にオックスフォード大学・ケンブリッジ大学（英国）の学生を講師に招いての英語合宿や、国際交流フェアでの韓国・アメリカからの留学生たちと韓国語、英語で交流するK-zone、E-zone（英文学科のプログラムを国際交流フェアでも実施）などが挙げられます。

キャンパス内における語学教育面でのサポートとしては、留学準備を目的とした学内でのTOEFLテストの実施、留学説明会や国際交流フェア、K-CLIPの留学生ブログ等により、海外派遣プログラムへの関心を喚起し、定期的に情報提供を行っています。

今後もより充実した国際交流プログラム提供し、学生達が「国際理解の精神」を体得できるよう国際交流事業を実施してまいります。

本学から海外へ

派遣留学	大学名	国名	人数	期間
	ロックフォード大学	アメリカ	1	1年
	梨花女子大学	韓国	2	1年
	徳成女子大学	韓国	3	5ヶ月
	ミリアム大学	フィリピン	2	5ヶ月
	国別集計	アメリカ	1	
	韓国	5		
	フィリピン	2		
	計	8		

認定留学	大学名	国名	人数	期間
	ニューカッスル大学	イギリス	3	1年
	計	3		

中期英語留学	大学名	国名	人数	期間
	チャタム大学	アメリカ	6	7ヶ月
	計	6		

中期海外研修	大学名	国名	人数	期間
	カリフォルニア大学アーバイン校	アメリカ	9	7ヶ月
	クイーンズランド大学	オーストラリア	5	7ヶ月
	計	14		

語学研修	大学名	国名	人数
	夏期：ヨーク大学	カナダ	17
	夏期：西オーストラリア大学	オーストラリア	9
	夏期：サセックス大学	イギリス	14
	夏期：フランシュ・コンテ大学	フランス	15
	春期：クイーンズランド大学	オーストラリア	13
	春期：ヨーク大学	イギリス	9
	春期：梨花女子大学	韓国	7
	国別集計	カナダ	17
		オーストラリア	22
		イギリス	23
	フランス	15	
	韓国	7	
	計	84	

本学から海外へ	総計	115
---------	----	-----

海外から本学へ

プログラム	大学名	国名	人数	期間	備考
交換留学	徳成女子大学	韓国	3	半年	総合文化学科3名（前期2名・後期1名）
	広東外語外貿大学	中国	1	1年	文学研究科1名
科学技術振興調整費による受入	華南師範大学	中国	2	1年	人間科学研究科 「地域からESDを推進する女性環境リーダー育成プログラム」による受入
	ミリアム大学	フィリピン	1	1年	
	ダナン工科大学	ベトナム	1	1年	
	サムラトランギ大学	インドネシア	1	1年	
長期受入	国別集計	中国	3		
		韓国	3		
		フィリピン	1		
		ベトナム	1		
		インドネシア	1		
	計		9		

	大学名	国名	人数	期間	備考
JLCP	ミリアム大学	フィリピン	6	15日	
SJCC	セントジョセフ・カレッジ・オブ・コマース	インド	4	9日	
HONOR	ワイオミング大学	アメリカ	14	21日	
	アサンプションカレッジ	フィリピン	7	9日	
JENESYS		フィリピン	25	3日	
	モーツアルテウム大学	オーストリア	3	10日	
ESD ワークショップ：地域に根ざした学生の活動	梨花女子大学	韓国	6	3日	
短期受入	計		65		

海外から本学へ	総計	74
---------	----	----

● 神戸女学院高等学部

本学から海外へ

	学校名	国名	人数	期間
公認留学	Kent School	アメリカ	4	1年
	Lake Region High School			1年
	Neenah High School			1年
	Juan Diego Catholic High School			1年
	Methodist Ladies' College	オーストラリア	1	1年
	計		5	

海外から本学へ

国名	人数	期間
オーストラリア	1	3ヶ月
スウェーデン	1	1年
計	2	

10 卒業、修了、満期退学、博士学位授与の状況

● 神戸女学院大学

	文学部		音楽学部	人間科学部				計
	英文学科	総合文化 学科	音楽学科	人間科学科		心理・行動 科学科	環境・バイオ サイエンス学科	
				人間行動 科学専攻	人間環境 科学専攻			
2008年	164	228	49	8	—	78	91	618
2009年	147	218	55	2	—	109	83	614
2010年	162	220	51	1	—	98	95	627
2011年	177	225	49	—	—	91	81	623
2012年	186	227	50	—	—	98	91	652

2008年度（人間科学部）からは学科改編後の卒業生数
2010年度以降については前期末（翌年9月）卒業を含まない

● 神戸女学院大学大学院

修士・博士前期課程

	文学研究科				音楽研究科	人間科学研究科	計
	英文学専攻	社会学専攻	日本文化学 専攻	比較文化学 専攻	音楽芸術 表現専攻	人間科学専攻	
2008年	7	2		4	7	6	26
2009年	2	—		4	7	12	25
2010年	6	1		1	4	12	24
2011年	12	1		1	7	8	29
2012年	12	3		2	7	10	34

2010年度以降については前期末（翌年9月）卒業を含まない

博士後期課程

博士後期満期退学

	文学研究科		人間科学研究科	計
	英文学 専攻	比較文化 学専攻	人間科学 専攻	
2008年	3	2	1	6
2009年	1	4	—	5
2010年	2	2	—	4
2011年	1	3	—	4
2012年	—	—	1	1
博士後期課程設置当初からの累計				

博士学位授与

	文学研究科		人間科学研究科	計
	英文学 専攻	比較文化 学専攻	人間科学 専攻	
2008年	—	—	—	—
2009年	—	—	1	1
2010年	1	—	1	2
2011年	—	—	2	2
2012年	—	1	—	1
博士後期課程設置当初からの累計				

● 神戸女学院中高部

	中学部
2008年	152
2009年	142
2010年	149
2011年	143
2012年	142

	高等学部
2008年	141
2009年	138
2010年	147
2011年	149
2012年	139

11 就職・進学状況等

● 神戸女学院大学

[2012年度就職概況]

今年度の卒業生の就職活動で特筆すべきことは、この学年の3年次から日本経団連の「採用選考に関する企業の倫理憲章」が改定され、就職環境が大きく変化したことです。2013年4月の採用から、企業の採用選考の広報活動開始が3年次の12月1日と、以前より2か月遅くなりました。しかし、面接など採用選考活動は従来通り翌年4月1日から、変更がなかったため、スケジュールが非常にタイトで、助走期間がない短期決戦の形になりました。12月1日のスタートまでにどれだけ準備を進めてきたかが、学生個々の活動や選考状況に後あと大きく影響することから、キャリアセンターでも、筆記試験対策、自己分析など事前準備を怠らないよう呼びかけてきました。

スタートが2か月遅くなったことで、企業側からは企業研究が甘くなったとの声があります。実際本学でも、自己分析や企業研究に十分な時間がかけられず、エントリーシート（ES）が通過しない、自己PRや志望動機をうまく伝えることができないといった相談が相次ぎました。キャリアセンターでは、カウンセラーやスタッフによる個別面談、ES添削、面接対策などに重点を置くとともに、お薦めの求人や企業情報をメールマガジンでその都度紹介し、きめ細かいサポートを強化してきました。

今年の卒業生の就職内定率は96.7%で、リーマンショック前には及びませんでした。ここ最近では一番高い数字となりました。景気は回復傾向で企業の採用意欲も高まっていますが、厳選採用には変わりありません。この数字は厳しい就職状況の中、学生達が健闘した結果だと評価しています。

決定先の業界は、金融の19.6%を筆頭に、卸売・小売、製造、サービス、教育・学習支援業と続いています。今年度、本学で特に内定者が増えたのは航空と公務員です。航空業界は例年一定数の希望者がありますが、今年度からJALが採用を再開したこともあり、ANAや外資を併せて22名（客室乗務員5名、グランドスタッフ17名）の内定者を得ました。またこれまで少数派だった公務員も、経済状況を反映してかチャレンジする学生が増え、8

名の内定者がありました。結果が出なかった場合も、卒業後引き続き受験準備に励む者が多くなっています。

決定先企業の規模別では、従業員1,000人以上の大企業に就職する割合が39.2%と、例年を上回りました。

コース別については、一般職の求人が減少する中、総合職を目指す学生が徐々にですが増えています。中でも、大手総合商社と大手広告代理店に各1名の内定者があったこと、卒業生が多く活躍している大手空調メーカーに学部生5名、大学院生1名の合計6名が内定を得たことなどは、ビッグニュースと言えます。

12月スタート、翌4月選考開始のスケジュール2年目となった今年度の3年生については、5月初旬に就職ガイダンスを開始し、キャリアセンターのサポートプログラムも前倒しにしました。プログラムの内容も、自ら考え動く機会を増やせるよう、マスでの講義にもグループワークをできるだけ取り入れ、少人数でのプログラムも増やし、より実践的な方向へと移行させています。また学生個々の意欲に応じたサポートの必要性から、3年生対象の「KCキャリア塾」、2年生対象の「KCプレ就活セミナー」も始めました。

就職内定率はある程度回復した今年度でしたが、学科別では就職希望者数の割合にまだ差があります。厳しい状況の中でも、学生が就職を最後まで諦めない、またスタッフが学生を諦めさせないface to faceのサポートをより強化することで、次年度も引き続き、1人でも多くの学生が希望する進路を実現できるよう、大学を挙げてサポートしていきます。

● 3年生対象キャリア支援プログラム実施状況

就職ガイダンス・セミナー		
4月	20金	インターンシップガイダンス：基礎編
	27金	インターンシップガイダンス：就職ナビ活用編
5月	11金	就職ガイダンス①
	18金	就職ガイダンス②
	25金	就職ガイダンス③
6月	1金	就職試験対策セミナー
	8金	就職ガイダンス：特別セミナー
	15金	自己分析講座①
	16土	第1回SPI模擬試験
	22金	自己分析講座②
	29金	職種研究講座①
7月	6金	職種研究講座②
	13金	職種研究講座③
	20金	就職マナー講座
8月	3金 6～9	SPI集中対策講座【有料】
9月	18～20	自己分析・文章力アップ講座【有料】
	21金	第2回SPI模擬試験【有料】
	25火	業界研究講座①
	28金	業界研究講座②
10月	5金	業界研究講座③
	19金	業界研究講座④
11月	2金	企業研究講座①
	9金	企業研究講座②
	16金	力のある中小・中堅企業の探し方 企業研究講座：番外編
	17土	SPI数理解答講座【有料】
	20火	業界研究セミナー：人材サービス
	26月	業界研究セミナー：メーカー 食品①
	27火	業界研究セミナー：医療・福祉
	29木	業界研究セミナー：不動産
	30金	就職ガイダンス：就活スタート編 就職ガイダンス：採用担当者からのアドバイス
	12月	1土
3月		業界研究セミナー：金融（損害保険）
4火		業界研究セミナー：専門商社（中堅）
6木		業界研究セミナー：メーカー（電機）
7金		エントリーシート対策講座：基礎編
11火		業界研究セミナー：金融（メガバンク）
14金		就活スタートアップセミナー①
15土		実践マナー対策講座【有料】
17月		業界研究セミナー：メーカー 食品②
18火		業界研究セミナー：情報通信（IT）
20木		業界研究セミナー：金融（信用金庫）
21金		就活スタートアップセミナー②
22土		エントリーシート&面接対策講座【有料】
1月		8火
	10木	人材業界ミニ研究会
	11金	エントリーシート対策講座：完成編
	15火	業界研究セミナー：専門商社（大手）
	17木	旅行業界ミニ研究会

就職ガイダンス・セミナー（続き）		
1月	21～25	模擬面接講座【有料】
	22火	業界研究セミナー：金融（地方銀行）
	22～24	エントリーシート対策講座
2月	25金	就職ガイダンス：直前対策編
	4～8 13、15	学内企業セミナー（51社）
	8金	グループディスカッション・トレーニング
3月	20水	学内合同企業セミナー（15社）
	5火	面接対策実践講座
	13水	通るためのES・面接対策講座
	23土	面接対策実践講座【有料】

● 他学年対象キャリア支援プログラム実施状況

2年生対象		
12月	7金	進路ガイダンス①
1月	11金	進路ガイダンス②

1年生対象		
7月	6金	キャリアガイダンス①
10月	5金	キャリアガイダンス②

学年不問		
7月	27金	エアラインセミナー
		公務員ガイダンス①
10月	20土	学内OG訪問会①
11月	16金	留学と就職
12月	8土	学内OG訪問会②
1月	22火	公務員ガイダンス②

その他		
・秘書技能検定講座 2級、準1級 春期・夏期2回実施		
・TOEIC対策講座 春期・夏期集中講座		
・公務員受験対策講座 春期・夏期集中講座		
・キャリアカウンセラーによる個別面談 2012年4月～2013年3月		
・内定者による就職活動体験報告会 11月～12月		

	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度
卒業生数	606	614	625	613	642
希望者数	493	504	486	494	509
決定者数	485	446	440	442	492
進学者数	31	36	30	29	27

前期末卒業を含まない

主な就職先（2012年度）

企業名等	企業名等	企業名等
建設業	西日本旅客鉄道	日本生命保険相互会社
竹中工務店	卸売・小売業	兵庫六甲農業協同組合（JA 兵庫六甲）
製造業	アズワン	飲食店・宿泊業
ゴンチャロフ製菓	岩谷産業	ホテルオークラ神戸
ダイキン工業	花王カスタマーマーケティング	医療・福祉
東芝テック	住友商事マシネックス	社会医療法人愛仁会
バイエル薬品	ダイワボウ情報システム	サービス業
ヤンマー	丸紅	アサツー ディ・ケイ
ローム	金融・保険業	インテリジェンス
情報通信・出版業	みずほフィナンシャルグループ	スタッフ・サービス
NTT ファシリティーズ関西	三井住友銀行	セコム
山陰放送	三菱東京 UFJ 銀行	高見
運輸業	池田泉州銀行	日本中央競馬会
全日本空輸	関西アーバン銀行	日本旅行
日本航空	大和証券	郵船トラベル
ANA エアサービス東京	野村證券	官公庁
ANA エアポートサービス	東京海上日動火災保険	伊丹市
ANA 大阪空港	三井住友海上火災保険	大阪府
JAL スカイ	アフラック（アメリカンファミリー生命保険会社）	神戸市

業種別に記載

進学先（2012年度）

学校名	人数	学校名	人数
兵庫教育大学大学院学校教育研究科	1	同志社大学大学院神学研究科	1
鹿児島大学大学院臨床心理学研究科	1	桐朋学園大学院大学音楽研究科	1
岡山大学大学院医歯薬学総合研究科	1	神戸女学院大学大学院文学研究科	7
大阪大学大学院言語文化研究科	1	神戸女学院大学大学院音楽研究科	4
大阪大学大学院国際公共政策研究科	1	神戸女学院大学大学院人間科学研究科	7
和歌山大学大学院教育学研究科	1		

年度毎の就職決定状況

		卒業生数	希望者数	決定者数	決定者／ 希望者	進学者数	決定者／ (卒業生－進学者)
2008年度	英文	160	140	139	99.3%	2	88.0%
	総合文化	222	191	186	97.4%	5	85.7%
	音楽	49	26	25	96.2%	6	58.1%
	心理・行動	84	62	61	98.4%	8	80.3%
	環境・バイオサイエンス	91	74	74	100.0%	10	91.4%
	総計	606	493	485	98.4%	31	84.3%
2009年度	英文	147	126	108	85.7%	7	77.1%
	総合文化	218	189	163	86.2%	7	77.3%
	音楽	55	26	26	100.0%	8	55.3%
	心理・行動	111	91	82	90.1%	9	80.4%
	環境・バイオサイエンス	83	72	67	93.1%	5	85.9%
	総計	614	504	446	88.5%	36	77.2%
2010年度	英文	160	128	123	96.1%	8	80.9%
	総合文化	220	182	159	87.4%	2	72.9%
	音楽	51	19	16	84.2%	6	35.6%
	心理・行動	99	79	72	91.1%	7	78.3%
	環境・バイオサイエンス	95	78	70	89.7%	7	79.5%
	総計	625	486	440	90.5%	30	73.9%
2011年度	英文	174	145	130	89.7%	4	76.5%
	総合文化	222	191	170	89.0%	2	77.3%
	音楽	48	25	20	80.0%	10	52.6%
	心理・行動	90	68	63	92.6%	6	75.0%
	環境・バイオサイエンス	79	65	59	90.8%	7	81.9%
	総計	613	494	442	89.5%	29	75.7%
2012年度	英文	183	149	144	96.6%	5	80.9%
	総合文化	224	187	179	95.7%	8	82.9%
	音楽	48	23	23	100%	5	53.5%
	心理・行動	96	72	69	95.8%	4	75.0%
	環境・バイオサイエンス	91	78	77	98.7%	5	89.5%
	総計	642	509	492	96.7%	27	80.0%

備考 前期末卒業を含まない
 就職者：正規の職員・従業員、自営業主等（音楽講師等、自営とみなした者を含む）
 正規の職員ではない者（雇用期間が1年以上かつフルタイム勤務相当の者）
 進学者：大学院進学者のみ（海外大学院含む）

● 神戸女学院中高部 進学状況は非公表

Ⅲ. 財務の概要

1 2012年度決算の概要

消費収支についてみると、今年度は87百万円の消費支出超過となり、翌年度繰越消費支出超過額は8億86百万円となりました。

まず、収入の部については、在校生数に著しい変動はなく、学生生徒等納付金は前年度並みとなりましたが、定員管理の精度が高まったことなどから私立大学等経常費補助金収入が増加（前年度比43百万円増）しました。一方で、前年度固定資産売却により計上した資産売却差額の要因剥落により93百万円が減少し、帰属収入は52億90百万円（前年度比45百万円減）となりました。

次に、消費支出の部については、前年度に実施したネットワーク・情報教育システムの更新に匹敵する大規模な投資がなかったため、前年度比2億37百万円減の47億49百万円と一昨年並みとなりました。

その結果、帰属収支差額は5億41百万円の収入超過となり、帰属収支差額比率についても10.2%と、目標値である8.0%を上回る結果となりました。

一方、Kobe College International Students House(土地支出1億50百万円)や倉庫(4)新築工事(建物支出35百万円)、EUCクラス分けシステム(教育

研究用ソフトウェア支出18百万円)などの設備投資や、設備投資にかかる借入金返済(2億26百万円)を実行した結果、今年度は6億28百万円の基本金組入が必要となり、消費収支差額は、87百万円の消費支出超過となりました。

以上により、翌年度繰越消費支出超過額は8億86百万円となっておりますが、2013年度も、中高部2号館新築工事などの設備投資を計画しており、今後も更なる繰越消費支出超過が見込まれるため、引き続きこの解消に向けた努力を進めてまいります。

また、資金収支についてみると、収入の部は、前年度に実施した財投機関債の売却や経営充実資金の新規借入を今年度は実施していないため、減収となりました。一方、支出の部は、借入金の繰上償還額も前年度より少額となり、また、大規模設備投資案件のうち文学部1号館の改修及び中高部タルカット館のバリアフリー化を次年度以降に延期したため、施設関係支出、設備関係支出ともに減少し、次年度繰越支払資金は前年度比17百万円増の25億67百万円となりました。

2 資金収支計算書

資金収支計算書は、学校法人における当年度の諸活動に対応するすべての収入及び支出の内容並びに当年度における現金・預金の収入及び支出のてん末を明らかにすることを目的に作成している計算書類です。

大科目レベルの資金収支計算書は、表1のとおりとなりました。(本表では、単位未満を切捨表示しているため、内訳を加算したものと合計は一致しません)

2012年度の本学院の資金収支計算書の概要について補正後の予算と対比しながら以下に記載します。

収入の部

【学生生徒等納付金収入】

授業料や入学金などの学生生徒等納付金収入は、予算どおりの42億31百万円となりました。

【手数料収入】

入学検定料などによる手数料収入は、2013年度大学入試受験者数は減少しましたが、予算比では3百万円増の89百万円となりました。

【寄付金収入】

本学院在校生の保護者、同窓生、企業や団体、教職員などからの寄付による寄付金収入は、予算比4百万円増の74百万円となりました。なお、資金収支計算書には、現預金の動きを伴わない現物寄付金は含まれていません。

【補助金収入】

国や地方公共団体等からの補助金収入は、私立大学等経常費補助金の算定方法が変更された前年度実績をベースに見積もりましたが、定員管理の精度が高まったことなどから補助金額が増額となり、予算比40百万円増の5億20百万円となりました。

【資産運用収入】

運用資産は、前年度に引き続き、安全性を重視して債券等への新規投資を差し控えた運用を維持しましたが、予算どおりの68百万円の収入を確保しました。

【資産売却収入】

今年度は、大規模の資産売却は実施していません。

【事業収入】

事業収入は、ほぼ予算どおりの92百万円となりました。主な内訳は、学生寮の寮費収入や公開講座等収入などによるものです。

【雑収入】

雑収入は、主に私学退職金財団からの交付金収入によるものであり、予算比7百万円増となりました。

【借入金等収入】

前年度は、日本私立学校振興・共済事業団より、経営充実資金として3億円の新規借入を実行しましたが、今年度は新たな借入はありません。

【前受金収入】

2013年度の授業料や入学金などで構成される前受金収入は、入学生が微減したことなどにより、予算比5百万円減の8億14百万円となりました。

【その他の収入】

その他の収入は、出資金の返還などにより予算比14百万円増の2億28百万円となりました。今年度も、退職給与引当金の減少に伴い退職給与引当特定資産を取り崩しています。

【借入金等利息支出】

借入金等利息支出の10百万円は、阪神・淡路大震災復興などを目的とした日本私立学校振興・共済事業団からの借入金の支払利息額です。

【借入金等返済支出】

前記、日本私立学校振興・共済事業団からの借入金の約定返済に加え、今年度は1億64百万円の繰上償還を実施しました。

【施設関係支出】

土地、建物や構築物などへの支出である施設関係支出は、予算比3百万円減の2億61百万円となりました。主な内訳は、Kobe College International Students Houseの用地購入に伴う土地支出(1億50百万円)、倉庫(4)の新築工事に伴う建物支出(35百万円)などです。

【設備関係支出】

教育研究用機器備品や資産計上する図書などへの支出で構成される設備関係支出は、1億1百万円となりました。主な内訳は、ラーニングコモンズ関連設備費用などの教育研究用機器備品支出(46百万円)、図書支出(27百万円)、EUCクラス分けシステム(18百万円)への支出によるものです。

【資産運用支出】

資産運用支出は、ほぼ予算どおりの1億38百万円となりました。主な内訳は、第3号基本金引当資産への積増し分(1億22百万円)です。

支出の部

【人件費支出】

教職員の給与・賞与や退職金の支払いによる人件費支出は、予算どおりの30億97百万円となりました。

【教育研究経費支出】

教育研究のために支出した経費は、予算比47百万円の減となりました。主として、消耗品費支出や業務委託費支出の減によるものです。

【管理経費支出】

管理経費は、予算比7百万円減の2億89百万円となりました。主として、通信運搬費支出の減によるものです。

(表1)資金収支計算書

(単位:百万円)

収入の部					
科 目	本年度 予算	本年度 決算(A)	前年度 決算(B)	(A)-(B)	対前年度比増減要因
学生生徒等納付金収入	4,230	4,231	4,231	△ 0	在校生数に著しい変動はなく、前年度並みとなりました。
手数料収入	86	89	98	△ 9	入学検定料などの手数料収入は、大学志願者数の減少により、前年度比9百万円の減となりました。
寄付金収入	70	74	79	△ 5	教育振興会を通じた寄付が中心で、前年度比5百万円の減となりました。
補助金収入	479	520	491	29	大学改革推進等補助金がなくなったものの、私立大学等経常費補助金の増(43百万円)や私立大学教育研究活性化設備整備事業補助金(13百万円)を新たに計上したこと等により、今年度は29百万円の増となりました。
資産運用収入	68	68	100	△ 32	前年度は、世界的なソブリンリスクの高まりから、信用リスクの低減を目的として財投機関債を売却しましたが、今年度は市場動向を踏まえ、安全性重視の運用を行った結果、前年度比32百万円の減となりました。
資産売却収入	—	0	516	△ 516	前年度は、妙高高原の土地売却収入15百万円や財投機関債を中心とした有価証券売却収入4億99百万円を計上していますが、今年度は大規模の資産売却は実施していません。
事業収入	90	92	61	31	前年度は、学生寮エアコン等改修工事費27百万円を計上したこと等による補助活動収入が減少していましたが、今年度は特殊要因がないため前年並みとなりました。
雑収入	204	211	172	39	今年度は、選定年制を含む定年退職者が増加したため、私学退職金財団交付金収入が前年度比38百万円の増となりました。
借入金等収入	—	—	300	△ 300	前年度は、日本私立学校振興・共済事業団から経営充実資金として、3億円の新規借入を行いました。
前受金収入	819	814	842	△ 28	翌年度の授業料や入学金などの前受金収入は、大学入学者数が前年度比約30名減少したことなどにより、前年度比28百万円の減となりました。
その他の収入	214	228	665	△ 437	前年度は、減価償却引当特定資産の対象資産を有価証券科目に振替えましたが(4億6百万円)、今年度は振替処理を実施していないため、前年度比減となっています。
資金収入調整勘定	△ 1,034	△ 1,034	△ 943	△ 91	2011年度大学入学者が2010年度に比べ約30名増加したことによる前期末前受金の増(36百万円)と私学退職金財団交付金収入や補助金収入等の期末未収入金の増(54百万円)です。
前年度繰越支払資金	2,550	2,550	2,921	△ 371	
収入の部合計	7,777	7,847	9,539	△ 1,692	
支出の部					
科 目	本年度 予算	本年度 決算(A)	前年度 決算(B)	(A)-(B)	対前年度比増減要因
人件費支出	3,097	3,097	3,066	31	ほぼ、前年度並みの支出となりました。
教育研究経費支出	1,069	1,022	1,260	△ 238	前年度はネットワーク・情報教育システムの更新に伴い、消耗品費等で2億20百万円の経費を計上していたため、前年度比2億38百万円の減となっています。
管理経費支出	296	289	307	△ 18	印刷製本費が減少(22百万円減)したことなどによります。
借入金等利息支出	11	10	26	△ 16	借入金返済に伴う借入金元本の減少によるものです。
借入金等返済支出	286	286	658	△ 372	約定返済1億22百万円に加え、繰上償還(1億64百万円)を実施しました。
施設関係支出	265	261	389	△ 128	今年度の主な内訳は、Kobe College International Students Houseの用地購入に伴う土地支出(1億50百万円)、倉庫(4)の新築工事に伴う建物支出(35百万円)です。
設備関係支出	91	101	225	△ 124	今年度の主な内訳は、ラーニングcommons関連設備費用(5百万円)などの教育研究用機器備品支出(46百万円)、図書支出(27百万円)、EUCクラス分けシステム(18百万円)などの教育研究用ソフトウェア支出(22百万円)です。
資産運用支出	137	138	997	△ 859	前年度は、減価償却引当特定資産の対象資産を有価証券科目に振替えた(8億13百万円)ほか、今年度は振替処理を実施していないため、前年度比減となっています。
その他の支出	159	157	205	△ 48	今年度の主な内訳は、第3号基本金引当資産支出(1億22百万円)です。前年度に計上していた預り金支払支出(36百万円)、仮受金精算支出(15百万円)が今年度はないため、前年度比では減少しています。
資金支出調整勘定	△ 109	△ 85	△ 148	63	主に、期末未払金の減(41百万円)や前期末前払金の減(21百万円)によるものです。
次年度繰越支払資金	2,472	2,567	2,550	17	以上の要因により、今年度末の現金と預金の残高は、前年度比17百万円の増となりました。
支出の部合計	7,777	7,847	9,539	△ 1,692	

3 消費収支計算書

消費収支計算書は、学校法人における今年度の消費収入（学校法人の負債とならない収入である帰属収入から基本金に組入れる額を控除して計算するもの）、消費支出（当該年度において消費する資産の取得価額及び用役の対価に基づいて計算するもの）の内容及び均衡状態を明らかにすることを目的に作成している計算書類です。学校法人は営利法人ではないため、基本金組入れを行った後の消費収入と消費支出が長期的にほぼ同額でつり合うことが望ましいとされています。

大科目レベルの消費収支計算書は、表2のとおりです。（本表では、単位未満を切捨表示しているため、内訳を加算したものと合計は一致しません）

2012年度の本学院の消費収支計算書の概要について以下に記載します。

消費収入の部

【帰属収入合計】

学生生徒等納付金、手数料、寄付金、補助金、資産運用収入、事業収入、雑収入については、寄付金に現物寄付（1百万円）が含まれることを除き、ほぼ資金収支計算書の収入の部と同様の内容です。なお、資産売却差額については、固定資産の売却益を計上しています。

これにより帰属収入の合計は、予算比61百万円増の52億90百万円となりました。

【基本金組入額】

第1号基本金（学校法人が保有する固定資産のうち、教育の充実向上の用に供されるものを組み入れる）へ5億6百万円を組入れました。主な内訳としては、Kobe College International Students Houseの用地購入に伴う土地支出（1億50百万円）や倉庫（4）の新築工事に伴う建物支出（35百万円）などの固定資産取得によるもののほか、借入金返済分2億26百万円も組入れています。

また、第3号基本金（奨学金などの教育研究活動に基金の運用果実をもって運営するために組み入れる）へ1億22百万円を組入れました。

【消費収入の部】

上記により消費収入の部合計は、予算比98百万円増加し、46億61百万円となりました。

消費支出の部

【消費支出の部】

人件費は、資金収支計算書の人件費支出から退職金支出（2億46百万円）を控除し、退職給与引当金繰入額（2億12百万円）を加算しています。

教育研究経費と管理経費は、資金収支計算書の各経費支出に減価償却額（計3億51百万円）を加算していることが大きな違いです。そのほかは、ほぼ資金収支計算書と同様であり、結果、消費支出の部は、予算比55百万円減の47億49百万円となりました。

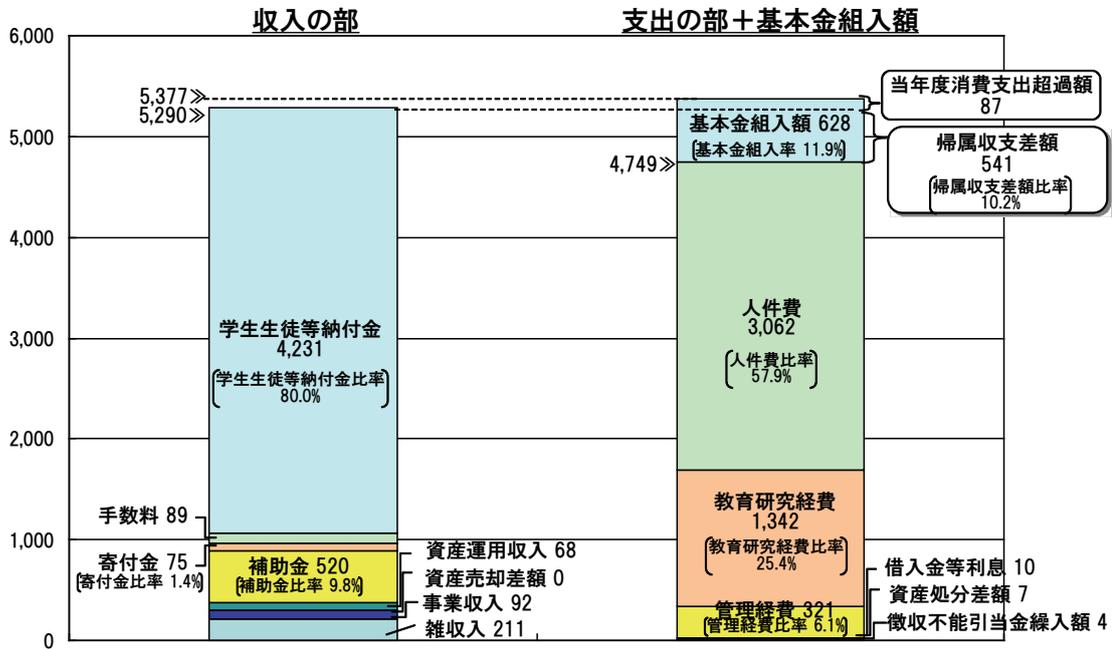
(表2)消費収支計算書

(単位:百万円)

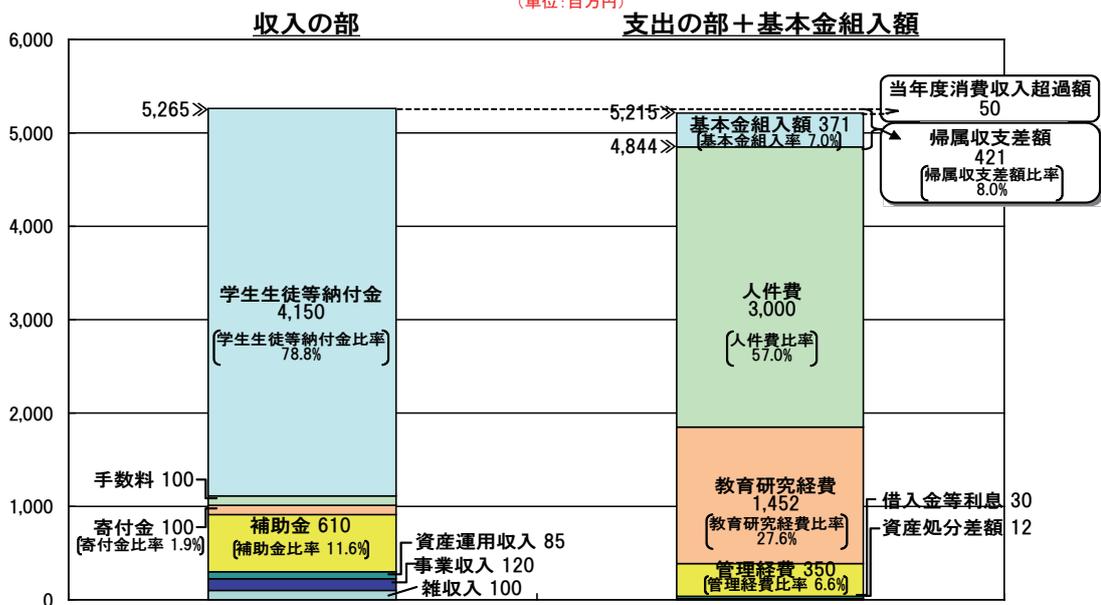
消費収入の部					
科 目	本年度 予算	本年度 決算(A)	前年度 決算(B)	(A)-(B)	対前年度比増減要因
学生生徒等納付金	4,230	4,231	4,231	△ 0	資金収支計算書と同様です。
手数料	86	89	98	△ 9	
寄付金	71	75	82	△ 7	資金収支計算書計上額に加え、ステンドグラスや絵画等の現物寄付金1百万円を計上しています。
補助金	479	520	491	29	資金収支計算書と同様です。
資産運用収入	68	68	100	△ 32	前年度は、主に、保有債券の売却による有価証券売却差額91百万円を計上していましたが、今年度は大規模の資産売却は実施していません。
資産売却差額	—	0	93	△ 93	
事業収入	90	92	61	31	資金収支計算書と同様です。
雑収入	204	211	175	36	
帰属収入合計	5,229	5,290	5,335	△ 45	以上の要因により、前年度比45百万円の減となりました。
基本金組入額合計	△ 666	△ 628	△ 924	296	今年度の主な組入内容は、Kobe College International Students Houseの用地購入に伴う土地支出(1億50百万円)による組入、借入金返済に伴う組入(2億26百万円)、第3号基本金組入(1億22百万円)などです。
消費収入の部合計	4,563	4,661	4,411	250	消費収入の部合計は、前年度比2億50百万円増となりました。
消費支出の部					
科 目	本年度 予算	本年度 決算(A)	前年度 決算(B)	(A)-(B)	対前年度比増減要因
人件費	3,065	3,062	3,013	49	資金収支計算書から退職金支出を控除し、退職給与引当金繰入額を加算しています。
教育研究経費	1,388	1,342	1,549	△ 207	資金収支計算書に減価償却費(3億19百万円)を加算しています。要因は、資金収支計算書と同様です。
管理経費	328	321	355	△ 34	資金収支計算書に減価償却費(31百万円)を加算しています。要因は、資金収支計算書と同様です。
借入金等利息	11	10	26	△ 16	資金収支計算書と同様です。
資産処分差額	12	7	40	△ 33	前年度は、妙高高原の土地売却による16百万円を含む固定資産処分差額39百万円、有価証券処分差額1百万円を計上していましたが、今年度は固定資産処分差額のみ計上しています。
徴収不能引当金繰入額	—	4	—	4	今年度は、貸与奨学金にかかる徴収不能見込額を計上しています。
徴収不能額	—	—	0	△ 0	前年度は、貸与奨学金および学納金の徴収不能額を計上していました。
消費支出の部合計	4,804	4,749	4,986	△ 237	消費支出の部合計は、前年度比2億37百万円の減となりました。
当年度消費収入 (△支出)超過額	△ 241	△ 87	△ 575	488	以上の要因により、今年度の消費支出超過額は、前年度比4億88百万円の減となりました。
前年度繰越消費収入 (△支出)超過額	△ 798	△ 798	△ 222	△ 576	
翌年度繰越消費収入 (△支出)超過額	△ 1,039	△ 886	△ 798	△ 88	以上の要因により、消費収支差額の部は、前年度より支出超過額が88百万円増加し、8億86百万円の繰越消費支出超過となりました。
帰属収支差額	424	541	348	193	帰属収入合計から消費支出の部合計を差し引いたもので、学校の施設設備等の取得財源や借入金の返済財源となります。(企業会計上の当期利益金にほぼ相当するものです。)

(図1)

2012(平成24)年度消費収支の概要
(単位:百万円)



2008~2012年度 目標消費収支の概要
(単位:百万円)



(表3)消費収支内訳表(2012(平成24)年度)

(単位:百万円)

消費収入の部				
部門	学校法人	神戸女学院 大学	神戸女学院 高等学部	神戸女学院 中学部
学生生徒等納付金	—	3,601	296	332
手数料	—	83	0	5
寄付金	—	61	7	7
補助金	—	309	101	109
資産運用収入	—	52	7	7
資産売却差額	—	0	—	—
事業収入	—	92	—	—
雑収入	0	114	7	89
帰属収入合計	0	4,315	421	553
基本金組入額合計	△ 0	△ 496	△ 65	△ 65
消費収入の部合計	0	3,819	355	487

(単位:百万円)

消費支出の部				
部門	学校法人	神戸女学院 大学	神戸女学院 高等学部	神戸女学院 中学部
人件費	47	2,369	269	376
教育研究経費	—	1,102	122	117
管理経費	6	280	16	17
借入金等利息	—	8	0	0
資産処分差額	—	6	0	0
徴収不能引当金繰入額	—	4	—	—
消費支出の部合計	54	3,771	409	513

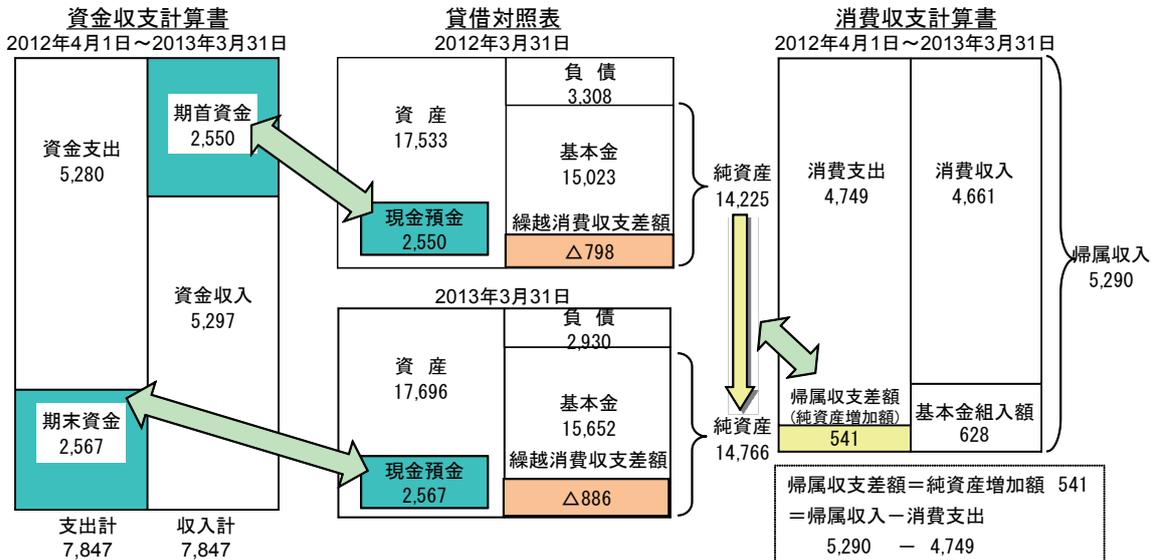
帰属収支差額	△ 54	544	11	39
消費収支差額	△ 54	47	△ 54	△ 26

注)学校法人部門は、昭和55年11月4日付文管企第250号「資金収支内訳表等の部門別計上及び配分について(通知)」により、限定列挙された範囲の取引を計上しています。(いわゆる法人本部業務に係る取引よりも限定された範囲の取引を計上することとなります。例えば、理事会や役員等の庶務に関することなどが該当します。)

(図2)

2012(平成24)年度決算の概要

(単位:百万円)



- ①資金収支計算書：学校法人のその年度の教育研究活動やこれに付随する活動に対応するすべての収入と支出の内容を明らかにし、現金預金の1年間(4月1日~3月31日)の動きを表すものです。
- ②消費収支計算書：学校法人の1年間(4月1日~3月31日)の収支状況を表すものです。
帰属収入と消費支出の内容を明らかにし、また消費支出が消費収入により賄われているかを表します。
「基本金」:取得した施設設備(第1号)+施設設備の将来取得に向けた先行組入れ(第2号)+各種基金(第3号)+運転資金(第4号)
⇒帰属収入のうち、学校法人がその諸活動の計画に基づき必要な資産を継続的に保持するために維持すべき額として決定した金額
- ③貸借対照表：年度末における学校法人の資産、負債の内容、純資産(資産-負債)の額を明らかにするものです。
また、基本金(維持すべき金額)に対する純資産の過不足状態を消費収支差額として表します。

注:単位未満を切捨表示しているため、内訳等を加算したものと合計等は一致しません。

4 貸借対照表

貸借対照表は、貸借対照表日（2013年3月31日）における学校法人の財政状態を明らかにするために作成します。2012年度の本学院の貸借対照表（大科目レベル）の概要は表4のとおりです。

（本表では、単位未満を切捨表示しているため、内訳を加算したものと合計は一致しません）

(表4)貸借対照表

(単位:百万円)

資産の部				
科 目	本年度末 (A)	前年度末 (B)	(A)-(B)	増減要因等
固定資産	14,927	14,833	94	
有形固定資産	8,611	8,622	△ 11	
土地	1,323	1,173	150	Kobe College International Students Houseの用地購入に伴う増加です。
建物	4,326	4,456	△ 130	倉庫(4)新築工事等による増加と減価償却に伴う減少です。
構築物	544	552	△ 8	西門道路拡幅工事等による増加と減価償却に伴う減少です。
教育研究用機器備品	445	498	△ 53	主に、減価償却に伴う減少です。
その他の機器備品	25	27	△ 2	
図書	1,940	1,913	27	図書の購入等による増加です。
車両	0	0	△ 0	
建設仮勘定	4	0	4	中高部2号館新築工事に伴う支出を計上しています。
その他の固定資産	6,316	6,211	105	
教育研究用ソフトウェア	37	20	17	主に、EUCクラス分けシステム導入による増加です。
その他のソフトウェア	16	15	1	
電話加入権	3	3	0	
有価証券	426	426	0	内容は、地方債、政府関係機関債です。
差入保証金	3	3	0	
出資金	19	27	△ 8	
貸与奨学金	287	295	△ 8	
退職給与引当特定資産	1,472	1,506	△ 34	将来の退職金の支払を想定した特定資産です。引当金の減少により取崩しました。一部の事業債や銀行預金等で運用しています。
減価償却引当特定資産	3,136	3,136	0	減価償却対象資産の将来の更新を目的とした特定資産です。政府関係機関債や一部の事業債、銀行預金等で運用しています。
岡田山建築保存引当特定資産	67	51	16	岡田山キャンパスの創建建築保存のための費用に充てることを目的とした特定資産です。内容は銀行預金です。
第3号基本金引当資産	845	722	123	第3号基本金に係る資産です。政府関係機関債や銀行預金で運用しています。
その他	0	0	0	
流動資産	2,768	2,699	69	
現金預金	2,550	2,532	18	現預金は、前年度比18百万円増の2億50百万円となりました。
修学旅行費預り資産	17	18	△ 1	現預金のうち、中高部の修学旅行等費用の預り金に対応する額を区分して表示しています。
未収入金	191	137	54	未収入金は、主に補助金や私学退職金財団からの交付金収入です。
前払金	9	12	△ 3	
資産の部合計	17,696	17,533	163	以上により、資産の部合計は、前年度比1億63百万円の増となりました。

(単位:百万円)

負債の部				
科 目	本年度末 (A)	前年度末 (B)	(A)-(B)	増減要因等
固定負債	1,829	2,138	△ 309	
長期借入金	348	614	△ 266	日本私立学校振興・共済事業団からの借入金であり、繰上償還1億64百万円及び短期借入金への振替1億2百万円によるものです。
退職給与引当金	1,472	1,506	△ 34	主に、勤続年数の長い教職員の退職によるものです。
長期未払金	9	18	△ 9	延払金の減少によるものです。
流動負債	1,100	1,169	△ 69	
短期借入金	102	122	△ 20	借入金のうちの1年以内に返済予定のものです。
未払金	85	110	△ 25	前年度に計上していた施設・設備関係の未払金(10百万円)を今年度は計上していないことなどにより減少しています。
前受金	814	842	△ 28	主な内訳は翌年度の授業料や入学などの前受金であり、大学入学人数が前年度比約30名減少したことなどにより減少しています。
預り金	81	75	6	
修学旅行費預り金	17	18	△ 1	預り金のうち、中高部の修学旅行等費用分を区分して表示しています。
負債の部合計	2,930	3,308	△ 378	

基本金の部				
科 目	本年度末 (A)	前年度末 (B)	(A)-(B)	増減要因等
第1号基本金	14,434	13,928	506	本年度の増加額は、学校法人が保有する固定資産のうち、新たに取得した基本財産を基本金として組入れた金額の合計です。今年度の増加は、主に土地の取得や借入金の返済によるものです。
第3号基本金	845	722	123	奨学基金などに組入れた金額の合計です。
第4号基本金	373	373	0	運営に必要な運転資金として恒常的に保持すべきとされる金額であり、教職員人件費支出、教育研究経費・管理経費支出及び借入金利息支出の1ヶ月分です。増減はありません。
基本金の部合計	15,652	15,023	629	

消費収支差額の部				
科 目	本年度末 (A)	前年度末 (B)	(A)-(B)	増減要因等
翌年度繰越消費収入(△支出)超過額	△ 886	△ 798	△ 88	消費収支差額の部は、支出超過が前年度より88百万円拡大し、8億86百万円の繰越消費支出超過となりました。
消費収支差額の部合計	△ 886	△ 798	△ 88	

負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計				
科 目	本年度末 (A)	前年度末 (B)	(A)-(B)	増減要因等
負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計	17,696	17,533	163	

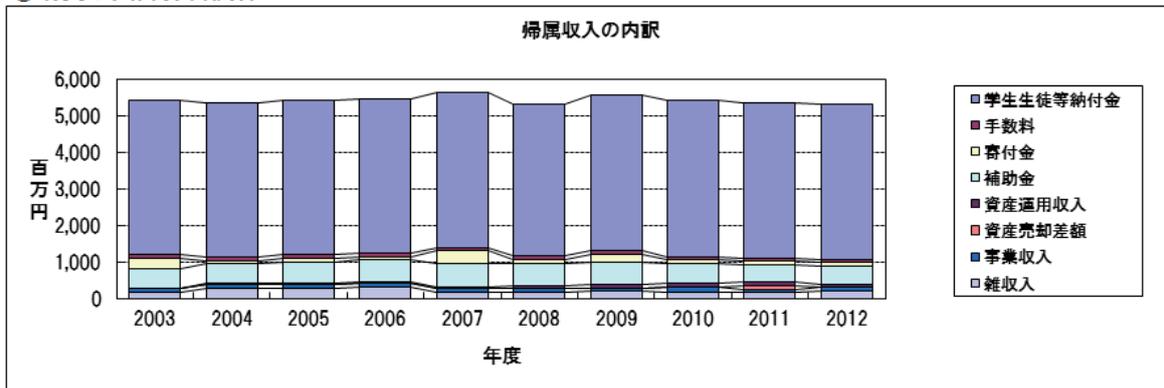
5 財務データの推移

過去10年間の消費収支計算書、貸借対照表の概要及び財務諸比率の推移は表5のとおりです。(本表では、消費収支計算書、貸借対照表は、単位未満

を切捨表示しているため、内訳を加算したものと合計は一致しません。また、財務諸比率は単位未満を四捨五入して表示しています)

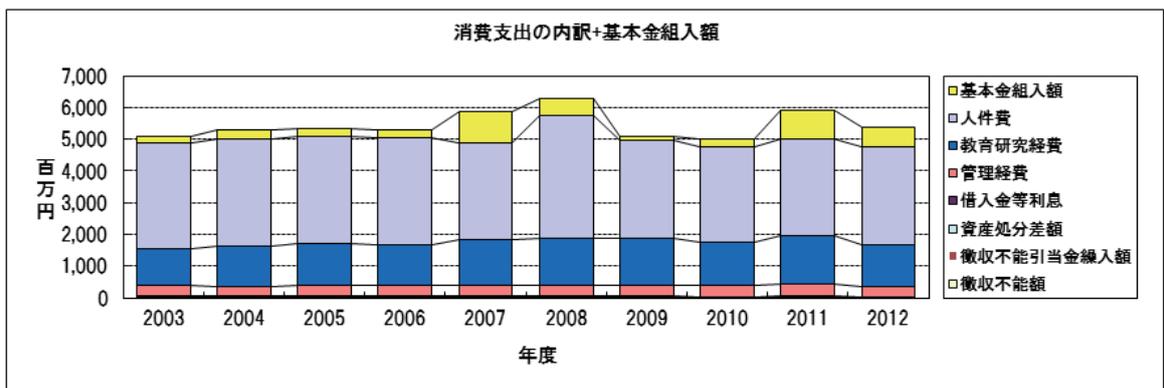
(表5)財務データ推移

①消費収支計算書関係



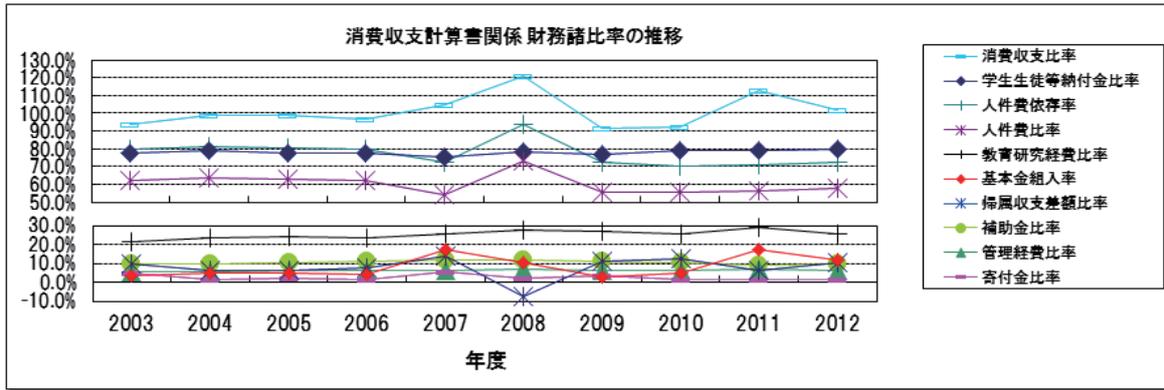
(年度、単位:百万円)

	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
学生生徒等納付金	4,210	4,220	4,189	4,229	4,245	4,154	4,262	4,283	4,231	4,231
手数料	119	113	104	106	105	99	96	97	98	89
寄付金	270	80	112	73	329	112	210	73	82	75
補助金	530	532	571	605	647	613	619	562	491	520
資産運用収入	23	26	28	37	53	76	103	115	100	68
資産売却差額	-	0	0	0	2	0	0	-	93	0
事業収入	101	101	105	100	102	95	87	109	61	92
雑収入	159	270	284	306	153	170	179	178	175	211
帰属収入合計	5,414	5,347	5,397	5,459	5,640	5,322	5,560	5,420	5,335	5,290
基本金組入額	△ 195	△ 271	△ 274	△ 233	△ 983	△ 560	△ 161	△ 262	△ 924	△ 628
消費収入の部合計	5,219	5,075	5,123	5,226	4,656	4,761	5,398	5,157	4,411	4,661



(年度、単位:百万円)

	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
人件費	3,353	3,412	3,381	3,374	3,060	3,876	3,084	3,016	3,013	3,062
教育研究経費	1,162	1,243	1,315	1,274	1,428	1,458	1,480	1,367	1,549	1,342
管理経費	307	309	321	351	331	360	335	337	355	321
借入金等利息	51	48	45	42	39	35	32	29	26	10
資産処分差額	13	7	13	17	12	6	11	9	40	7
徴収不能引当金繰入額	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
徴収不能額	0	1	2	-	3	1	-	-	0	-
消費支出の部合計	4,888	5,022	5,078	5,059	4,876	5,738	4,945	4,761	4,986	4,749
帰属収支差額	526	324	319	399	763	△ 416	614	658	348	541
消費収支差額	331	52	44	166	△ 220	△ 976	453	396	△ 575	△ 87



	(年度、単位：%)										
	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	
人件費比率	61.9%	63.8%	62.6%	61.8%	54.3%	72.8%	55.5%	55.7%	56.5%	57.9%	
人件費依存率	79.6%	80.8%	80.7%	79.8%	72.1%	93.3%	72.4%	70.4%	71.2%	72.4%	
教育研究経費比率	21.5%	23.3%	24.4%	23.3%	25.3%	27.4%	26.6%	25.2%	29.1%	25.4%	
管理経費比率	5.7%	5.8%	6.0%	6.4%	5.9%	6.8%	6.0%	6.2%	6.7%	6.1%	
学生生徒等納付金比率	77.8%	78.9%	77.6%	77.5%	75.3%	78.1%	76.7%	79.0%	79.3%	80.0%	
寄付金比率	5.0%	1.5%	2.1%	1.4%	5.8%	2.1%	3.8%	1.3%	1.5%	1.4%	
補助金比率	9.8%	10.0%	10.6%	11.1%	11.5%	11.5%	11.2%	10.4%	9.2%	9.8%	
帰属収支差額比率	9.7%	6.1%	5.9%	7.3%	13.5%	△ 7.8%	11.1%	12.2%	6.5%	10.2%	
消費収支比率	93.7%	99.0%	99.1%	96.8%	104.7%	120.5%	91.6%	92.3%	113.1%	101.9%	
基本金組入率	3.6%	5.1%	5.1%	4.3%	17.4%	10.5%	2.9%	4.8%	17.3%	11.9%	

【参考】

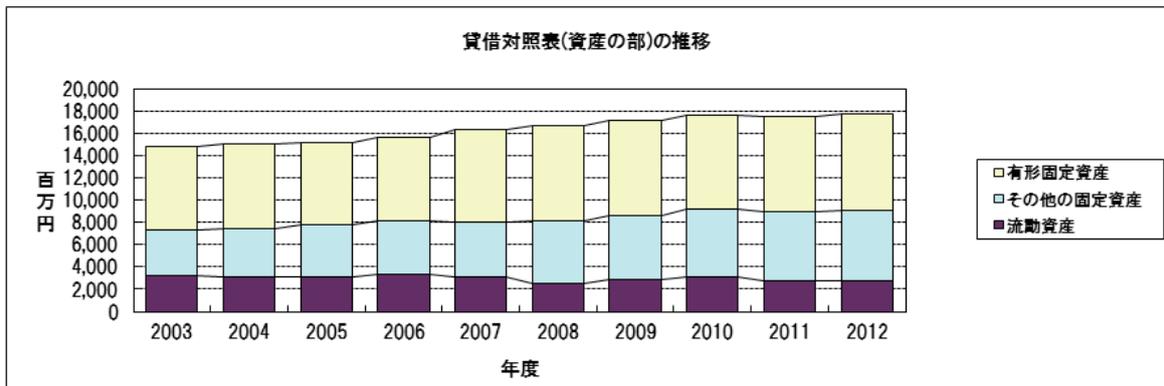
比率名	計算式	考え方	本学院 2012年度	全国平均	全国平均 (医歯系除く)	同規模平均
人件費比率	人件費 ÷ 帰属収入 × 100	低い値が良い	57.9%	51.3%	54.0%	51.2%
人件費依存率	人件費 ÷ 学生生徒等納付金 × 100	低い値が良い	72.4%	97.6%	74.4%	94.0%
教育研究経費比率	教育研究経費 ÷ 帰属収入 × 100	高い値が良い	25.4%	35.9%	30.9%	34.6%
管理経費比率	管理経費 ÷ 帰属収入 × 100	低い値が良い	6.1%	7.1%	8.7%	8.0%
学生生徒等納付金比率	学生生徒等納付金 ÷ 帰属収入 × 100	どちらとも言えない	80.0%	52.6%	72.7%	54.4%
寄付金比率	寄付金 ÷ 帰属収入 × 100	高い値が良い	1.4%	2.2%	2.3%	1.4%
補助金比率	補助金 ÷ 帰属収入 × 100	高い値が良い	9.8%	10.3%	12.4%	12.6%
帰属収支差額比率	(帰属収入 - 消費支出) ÷ 帰属収入 × 100	高い値が良い	10.2%	3.1%	3.4%	3.6%
消費収支比率	消費支出 ÷ 消費収入 × 100	低い値が良い	101.9%	107.8%	109.2%	105.0%
基本金組入率	基本金組入額 ÷ 帰属収入 × 100	高い値が良い	11.9%	10.1%	11.6%	8.2%

資料：「平成24年度版今日の私学財政」(日本私立学校振興・共済事業団)

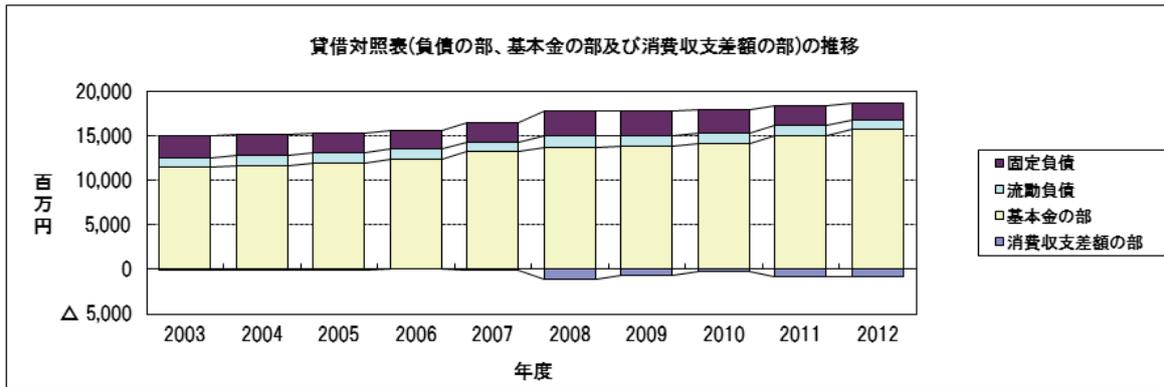
注 1：全国平均(541大学法人)、全国平均(医歯系除く)(501大学法人)、同規模平均(110大学法人)は、2011(平成23)年度決算の平均値

注 2：同規模平均は、学生生徒数3~5千人規模の大学法人の平均値

② 貸借対照表関係

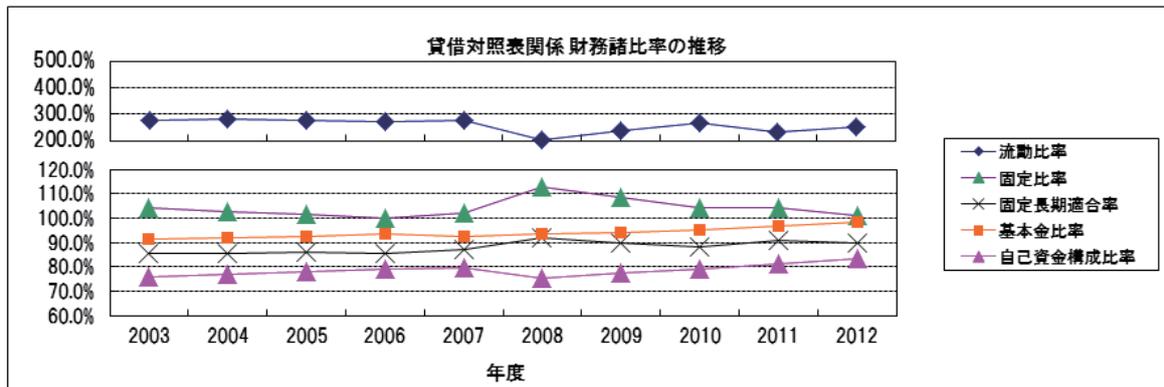


	(年度、単位：百万円)										
	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	
有形固定資産	7,576	7,525	7,481	7,393	8,359	8,547	8,587	8,412	8,622	8,611	
その他の固定資産	4,088	4,324	4,584	4,850	4,895	5,681	5,727	6,072	6,211	6,316	
流動資産	3,176	3,146	3,139	3,315	3,067	2,458	2,814	3,108	2,699	2,768	



(年度、単位:百万円)

	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
固定負債	2,476	2,344	2,215	2,090	2,193	2,883	2,722	2,544	2,138	1,829
流動負債	1,153	1,115	1,133	1,213	1,110	1,199	1,189	1,171	1,169	1,100
基本金の部	11,378	11,649	11,923	12,156	13,135	13,696	13,839	14,099	15,023	15,652
消費収支差額の部	△ 166	△ 113	△ 68	98	△ 116	△ 1,093	△ 621	△ 222	△ 798	△ 886
【参考】自己資金 (基本金+消費収支差額)	11,211	11,536	11,855	12,255	13,018	12,602	13,217	13,876	14,225	14,766



(年度、単位:%)

	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
流動比率	275.3%	282.1%	276.8%	273.2%	276.2%	204.9%	236.6%	265.3%	230.8%	251.5%
固定比率	104.0%	102.7%	101.8%	99.9%	101.8%	112.9%	108.3%	104.4%	104.3%	101.1%
固定長期適合率	85.2%	85.4%	85.8%	85.3%	87.1%	91.9%	89.8%	88.2%	90.6%	90.0%
基本金比率	91.2%	91.8%	92.6%	93.3%	92.6%	93.6%	94.2%	94.9%	96.9%	98.6%
自己資金構成比率	75.5%	76.9%	78.0%	78.8%	79.8%	75.5%	77.2%	78.9%	81.1%	83.4%

【参考】

比率名	計算式	考え方	本学院 2012年度	全国平均	全国平均 (医歯系除く)	同規模平均
流動比率	流動資産÷流動負債×100	高い値が良い	251.5%	232.1%	230.3%	303.4%
固定比率	固定資産÷自己資金×100	低い値が良い	101.1%	101.5%	100.1%	96.4%
固定長期適合率	固定資産÷(自己資金+固定負債)×100	低い値が良い	90.0%	91.6%	92.2%	88.7%
基本金比率	基本金÷基本金要組入額×100	高い値が良い	98.6%	96.7%	97.1%	97.3%
自己資金構成比率	自己資金÷総資金×100	高い値が良い	83.4%	84.9%	86.9%	87.1%

資料:「平成24年度版今日の私学財政」(日本私立学校振興・共済事業団)

注 1: 全国平均(541大学法人)、全国平均(医歯系除く)(501大学法人)、同規模平均(110大学法人)は、2011(平成23)年度決算の平均値

注 2: 同規模平均は、学生生徒数3~5千人規模の大学法人の平均値

注 3: 自己資金=基本金+消費収支差額、総資金=負債+基本金+消費収支差額

IV. 事業計画

1 今後の運営方針及び2013年度予算編成について

神戸女学院はキリスト教信仰と国際理解の精神を教育の根幹とし、豊かな自然とヴォーリス設計による校舎群が美しく調和する岡田山のキャンパスにおいてリベラルアーツ&サイエンス教育を実践し女子教育における先駆的な役割を果たしてきました。急激な少子高齢化の進行、グローバル化、地域コミュニティの衰退など社会の変化による諸課題が山積する中、各大学には新たな大学改革の方向性を示し、社会変革のエンジンとなる大学づくりが求められています。このような状況のもと、本学も伝統的な全人教育の質を一層向上、発展させながら広く社会の期待に応えるため、引き続き有効な事業計画を推進し、合わせてめざす教育事業の持続性を担保するべく財務基盤の強化を図ってまいります。

2013年度も引き続きハード、ソフト両面から学生・生徒のための教育環境整備を主眼に、必要な事業について予算措置を行いました。施設・設備面では、大規模事業として中高部2号館建替（地上3階建）の施工を7月から開始し、2014年夏の竣工をめざします。また、講堂の空調設備改修や中高部1号館の空調熱源改修など中長期整備計画にもとづく改修をはじめ、デフォレスト館の教室整備、文学館1階トイレ改修など老朽化した設備の改修、改善を実施する予定です。中高部タルカット館には2012年度の工事計画を再精査のうえエレベーターを付設し、学内のバリアフリー化を推進します。

教育施策の重点的課題として、2013年度から大学に開設される共通英語教育研究センターのための予算を計上し、専任教職員スタッフの拡充を含め、新たな共通英語カリキュラム展開のための措置を行いました。また関連する入試広報を強化し、受験生の増加を促進します。その他、引き続き厳しい就職活動の支援プログラムをはじめ、競争力維持のために優先的に必要とされる諸策に対して適切に予算措置を行いました。

これらの結果、2013年度予算編成においては繰越消費支出超過額が拡大する見通しです。収入面の柱である学納金、補助金等の増収が困難になりつつあることに加えて、2014年度からは消費税増税による固定的経費の負担増が見込まれ、めざすべき収支均衡にとって厳しい状況が続きます。このような環境下で競争力を担保するための事業計画を適宜推進しつつ財務状況の健全化を図るためには、支出面での合理性、優先性を一層精査し、予算配分、予算執行の規律を高めていくことが不可欠であり、この課題を全教職員で共有していきます。また中長期の財政の健全化を踏まえ、新たに2017年度達成をめざした財務比率目標値（対帰属収入比）を設定し、必要な改善努力を行います。主な財務比率は、人件費比率57.0%、教育研究経費比率27.6%、帰属収支差額比率8.8%です。

2 2013年度事業計画

教育・研究

- a) 共通英語教育研究センター「神戸女学院大学
共通英語教育オリジナル教科書の作成」

全学的に基礎英語教育の質を高めることを目的として、2014年度新生より、本学独自のテキストを活用し、新たな共通英語教育プログラムを開始します。2014年度の開設に向けて、2013年度においては、教科書の編纂や広報活動、教育内容の確定等の準備活動を行います。

- b) 人間科学部「地域からESDを推進する女性環境
リーダー」留学生研究支援

平成21年度科学技術総合推進費補助金選定事業

第5年次計画を実施します。

（補助金申請額18百万円）

- c) 音楽学部「音大連携による教育イノベーション
音楽コミュニケーション・リーダー養成」

東京音楽大学、昭和音楽大学と連携した共通講座の開講、地方公共ホールとの連携プロジェクト、またザルツブルグ音楽院のウェブ・レッスン等を実施します。

- d) 全学部「早期離職に歯止めをかけるキャリア支援」

OGやキャリアカウンセラーを活用して学内合同企業説明会や学内OG訪問会を開催し、学生への情報提供を充実させることで、よりきめ細やかな就職

支援体制を整備します。

e) 全学部「就職率向上のための就職支援」

3年生を対象とした4つの就職支援講座（筆記試験対策講座、自己分析講座、業界企業研究講座、面接対策実践講座）を専門業者に委託し、就職支援体制の強化を図ります。また、外部のキャリアカウンセラーを活用し、全就職希望者の個別面談を行います。

その他の事業

a) 「岡田山キャンパス移転 80 周年記念シンポジウム」の開催

岡田山キャンパス移転 80 周年を記念したシンポジウムを開催し、講演会や展示、見学会などもあわせて開催いたします。

b) 音楽学部「舞踊年度公演」「舞踊卒業公演」の実施

音楽学科舞踊専攻学生の年度学習の成果発表としての「舞踊年度公演」、4年間の習得の総まとめとしての「舞踊卒業公演」を実施します。

c) 大学「翻訳コンクール」の実施

高校生を対象とした「翻訳コンクール」を実施します。

施設・設備

a) 中高部 2 号館新築工事

中学部・高等学部の教育施設の拡充および今後の英語教育・教育活動の充実の必要性により、中高部

2号館の建替えを行います。

b) 建物等の改修

中高部では、地上3階、地下1階のタルカット記念館において、利用者の利便性を確保するため、エレベーターを設置するとともに、地下1階に身障者トイレ、階段に手摺を設置します。（バリアフリー推進補助金申請額 10.5 百万円）

さらに、大学では文学館1階トイレ改修工事やジュリア・ダッドレー記念館外壁塗装工事、中高部では中高部1号館雨水・污水管改修工事などを行い、環境向上を図ります。

c) 空調設備の改修工事

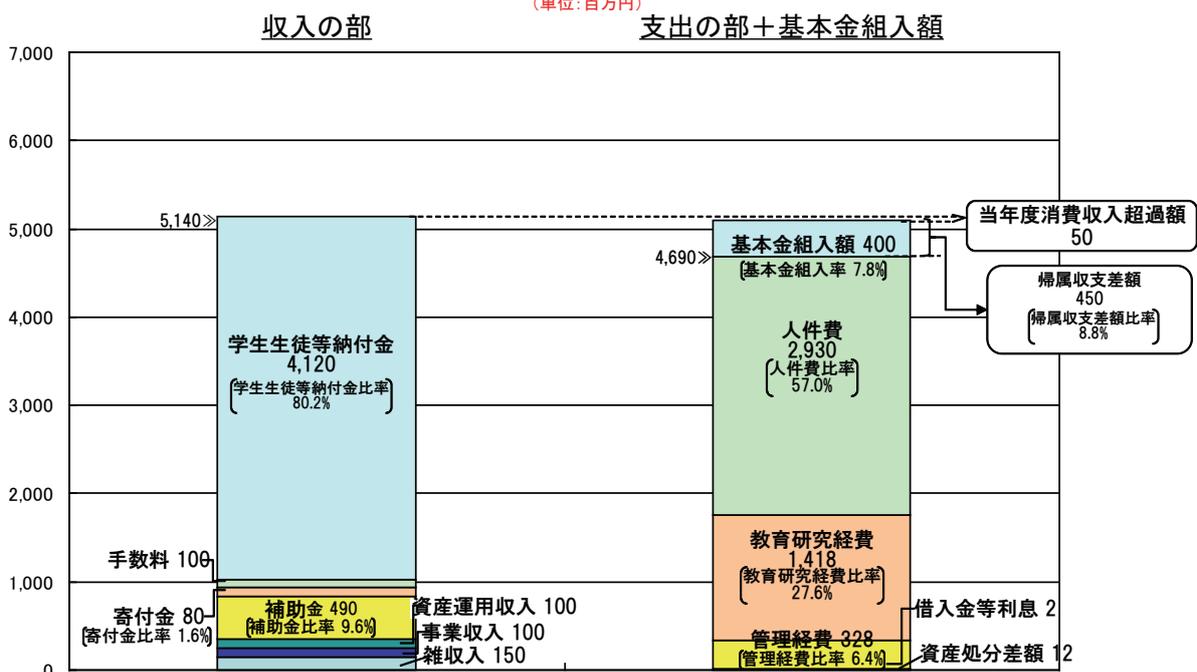
既設の空調設備の劣化や機器効率の低下に対応するため、講堂・チャペル空調設備および中高部1号館空調熱源改修工事、ならびに大学ではジュリア・ダッドレー記念館等のエアコン取替工事を行います。

d) 教室・AV設備等の整備

老朽化への対応として、大学ではデフォレスト記念館の2教室、中高部では書道教室の机と椅子を入れ替えます。また、大学においては、オンデマンド配信等を可能にする Media Site Live6 の導入や AV 機器の入替などを行います。さらに、前年度に引き続き、ラーニングcommonsにかかる機器等を整備していきます。

2013～2017年度 目標消費収支の概要

(単位:百万円)



3 2013年度予算書

2013年度の資金収支予算書は表6、消費収支予算書は表7のとおりです。(本表では、単位未満を切捨表示しているため、内訳を加算したものと合計は一致しません。)

(表6)資金収支予算書

(単位:百万円)

収入の部					
科 目	2012年度 予算	2012年度 決算(A)	2013年度 予算(B)	(B)-(A)	2013年度当初予算の内容
学生生徒等納付金収入	4,230	4,231	4,153	△ 78	2013年度入試による入学人数を中学部140人、大学630名と見込み、入学者の多かった学年の卒業による在籍学生数が減少すること等から、前年度比78百万円減の予算としています。
手数料収入	86	89	89	△ 0	厳しい募集環境は続きますが、成績上位受験生を対象とした広報活動の強化により、前年度並みの予算の確保を見込んでいます。
寄付金収入	70	74	50	△ 24	寄付金収入は、主として教育振興会を通じての一般寄付の見込額を計上しています。2012年度は大口寄付金を受けたため、特殊要因を除いて2013年度の予算を見込みました。
補助金収入	479	520	476	△ 44	私立大学経常費補助金は算定方法変更に伴い補助金が減少した2011年度の実績数値をベースとし、その他、バリアフリー化補助金や科学技術戦略推進費補助金などによる収入を見込んでいます。
資産運用収入	68	68	67	△ 1	前年度に引き続き、リスク分散型での投資を前提としており、前年度並みの収入を確保する見込みです。
資産売却収入	—	0	—	△ 0	
事業収入	90	92	93	1	2013年度は留学生寮が通年稼働となりますが、金額的影響は僅少のため、ほぼ前年度並みの予算を見込んでいます。
雑収入	204	211	214	3	主として定年退職予定者の退職金財団交付金を計上しています。2013年度は、定年退職予定者が多いため、前年度並みの収入を見込んでいます。
前受金収入	819	814	821	7	2014年度入学人数を中学部140名、大学630名として予算化しています。
その他の収入	214	228	226	△ 2	2013年度の主な内訳は、前期末未収入金収入と貸与奨学金回収収入であり、前年度並みの予算としています。
資金収入調整勘定	△ 1,034	△ 1,034	△ 1,042	△ 8	
前年度繰越支払資金	2,550	2,550	2,472	△ 78	
収入の部合計	7,777	7,847	7,620	△ 227	

支出の部					
科 目	2012年度 予算	2012年度 決算(A)	2013年度 予算(B)	(B)-(A)	2013年度当初予算の内容
人件費支出	3,097	3,097	3,086	△ 11	2013年度は、定年退職者のみで計算しています。
教育研究経費支出	1,069	1,022	1,139	117	共通英語教育研究センターにおける初年度活動費用や図書館ラーニングコモンズなど、新規事業に対する経費も見込んでいます。
管理経費支出	296	289	316	27	2013年度は、入試広報の強化を図るため、募集関連経費の増加を見込んでいます。
借入金等利息支出	11	10	4	△ 6	2012年度に利率3%の借入金の繰上返済を行ったため、支出減を見込んでいます。
借入金等返済支出	286	286	102	△ 184	2012年度は借入金の繰上償還を実施しましたが、2013年度は約定返済のみ実施する予定です。
施設関係支出	265	261	305	44	中高部関連では、中高部2号館新築工事、タカカット館バリアフリー工事等を、大学関係では文学部1階トイレ改修工事等を、その他、講堂・チャペルや中高部1号館の空調設備改修等を予定しています。
設備関係支出	91	101	121	20	デフォレスト館の教室整備23百万円、講義等のオンデマンド配信を可能にする「Media Site Live 6J」の導入10百万円、ラーニングコモンズ機器整備6百万円などを予算化しています。
資産運用支出	137	138	137	△ 1	2011年度より奨学金の充実に目的として第3号基本金に毎年1億円積み増す計画としています。2013年度は、第3号基本金引当資産および岡田山建築保存引当特定資産への繰入を予定しています。
その他の支出	159	157	156	△ 1	
資金支出調整勘定	△ 109	△ 85	△ 115	△ 30	
次年度繰越支払資金	2,472	2,567	2,368	△ 199	
支出の部合計	7,777	7,847	7,620	△ 227	

(表7)消費収支予算書

(単位:百万円)

消費収入の部					
科 目	2012年度 予算	2012年度 決算(A)	2013年度 予算(B)	(B)-(A)	2013年度当初予算の内容
学生生徒等納付金	4,230	4,231	4,153	△ 78	寄付金に現物寄付が含まれ、資産売却差額のみが計上される点を除き、 資金収支計算書と同様です。
手数料	86	89	89	△ 0	
寄付金	71	75	51	△ 24	
補助金	479	520	476	△ 44	
資産運用収入	68	68	67	△ 1	
資産売却差額	—	0	—	△ 0	
事業収入	90	92	93	1	
雑収入	204	211	214	3	
帰属収入合計	5,229	5,290	5,144	△ 146	
基本金組入額合計	△ 666	△ 628	△ 528	100	主として中高部2号館の新築工事などに伴う第1号基本金組入や奨学金の充 実を図るための第3号基本金組入を予定しています。
消費収入の部合計	4,563	4,661	4,616	△ 45	
消費支出の部					
科 目	2012年度 予算	2012年度 決算(A)	2013年度 予算(B)	(B)-(A)	2013年度当初予算の内容
人件費	3,065	3,062	3,085	23	資金収支計算書から退職金支出を控除し、退職給与引当金繰入額を加算して います。
教育研究経費	1,388	1,342	1,426	84	資金収支計算書に減価償却費(2億87百万円)を加算しています。内容は、資 金収支計算書と同様です。
管理経費	328	321	347	26	資金収支計算書に減価償却費(31百万円)を加算しています。内容は、資 金収支計算書と同様です。
借入金等利息	11	10	4	△ 6	資金収支計算書と同様です。
資産処分差額	12	7	12	5	
徴収不能引当金繰入額	—	4	—	△ 4	
徴収不能額	—	0	—	△ 0	
消費支出の部合計	4,804	4,749	4,874	125	
当年度消費収入 (△支出)超過額	△ 241	△ 87	△ 258	△ 171	
前年度繰越消費収入 (△支出)超過額	△ 798	△ 798	△ 1,039	△ 241	
翌年度繰越消費収入 (△支出)超過額	△ 1,039	△ 886	△ 1,297	△ 411	
帰属収支差額	424	541	270	△ 271	



学校法人 神戸女学院

〒 662-8505 西宮市岡田山 4-1 電話 0798-51-8508 (経理課)
<http://www.kobe-c.ac.jp/foundation/index.html>